

弘前市

子ども・子育て支援事業に関する

ニーズ調査報告書 中間報告

令和6年9月

青森県 弘前市

目次

第1章 調査実施の概要	1
1 調査の目的	1
2 調査の設計	1
(1) 調査票の種類と調査対象者	1
3 調査の実施方法と配布・回収状況	2
(1) 調査時期と調査方法	2
(2) 調査の配布・回収状況からみた調査信頼度	2
4 報告書の見方について	3
(1) 年齢・学年の定義	3
(2) 電算処理等の注意点	3
5 調査対象者の属性・家族状況	3
(1) 居住地域の状況	3
(2) 児童の属性	4
(3) 調査回答者の状況と配偶者有無	5
6 利用できる子育て支援サービスの種類	6
第2章 子育て家庭を取り巻く環境	7
1 主な保育者とその就労状況	7
(1) 就学前児童の母親の就労状況	7
(2) 小学生の母親の就労状況	9
(3) 就学前児童の父親の就労状況	10
(4) 小学生の父親の就労状況	11
第3章 子育て支援サービスの現状と今後の利用希望	12
1 平日の定期的な教育・保育事業の現状と今後の利用希望	12
(1) 平日の定期的な教育・保育事業の利用状況	12
(2) 休日の教育・保育の利用意向	14
(3) 就学前児童の病児・病後児保育事業の潜在ニーズ	15
(4) 小学生の病児・病後児保育事業の潜在ニーズ	17
2 地域の子育て支援事業の現状と今後の利用意向	19
(1) 地域子育て支援拠点事業の利用について	19
(2) 就学前児童の不定期の一時保育の利用について	21
(3) 小学生の不定期の一時保育事業の利用について	25

3 放課後の過ごし方について	29
（1）就学前児童の平日の放課後の過ごし方について	29
（2）小学生の平日の放課後の過ごし方について	34
（3）就学前児童の土曜・休日の放課後児童クラブ利用希望について	39
（4）小学生の土曜・休日の放課後児童クラブ利用希望について	40
（5）就学時前児童の長期休暇期間中の放課後児童クラブ利用希望について	41
（6）小学生の長期休暇期間中の放課後児童クラブ利用希望について	41

第1章 調査実施の概要

1 調査の目的

すべての家庭が安心して子育てができ、子どもたちが健やかに成長できる社会の実現を目指すために、子ども・子育て関連3法に基づく子ども・子育て支援新制度が平成27年4月に施行されました。「子ども・子育て支援法」では、「市町村子ども・子育て支援事業計画」の策定が義務づけられました。

弘前市では、子ども・子育て関連3法の趣旨を踏まえ平成27年3月に「第1期弘前市子ども・子育て支援事業計画」を策定、令和2年3月には「第2期弘前市子ども・子育て支援事業計画」を策定し、弘前市の実情に応じた質の高い教育・保育の提供及び地域の子育て支援の充実に力がかかわる施策を推進してきました。

現在の計画が令和6年度末で終期を迎えることから、令和7年度を始めとする「第3期弘前市子ども・子育て支援事業計画」を策定することになります。

計画策定の基礎資料とするため、子どもたちの普段の現状や子育て家庭の状況等を把握し、子育て支援における課題を整理することを目的に調査を実施しました。

2 調査の設計

(1) 調査票の種類と調査対象者

調査対象者の調査内容は、以下のとおりです。

図表1.1 調査の実施方法

	調査票「子ども・子育て支援事業に関するニーズ調査」	
	「就学前児童用」	「小学生用」
調査対象者	就学前児童を持つ保護者	小学生を持つ保護者
調査件数	4,000件	6,498件
調査内容	<ul style="list-style-type: none">・家庭等の子育て環境・保護者の就労状況・定期的な教育・保育事業の現状・利用意向・地域の子育て事業の現状・利用意向・お子さんの病気等の際の対応・不定期の教育・保育事業や宿泊を伴う一時預かり等の利用・利用意向・小学校就学後の過ごし方・地域における子育て環境や支援の状況	<ul style="list-style-type: none">・家庭等の子育て環境・保護者の就労状況・お子さんの病気等の際の対応・不定期の保育や宿泊を伴う施設の利用状況・お子さんの放課後の過ごし方・長期休暇期間の放課後児童クラブの利用希望・地域における子育て環境や支援の状況

3 調査の実施方法と配布・回収状況

(1) 調査時期と調査方法

子ども子育て支援ニーズ調査は、令和6年6月13日～令和6年7月3日にかけて実施しました。調査方法は、就学前児童のいる世帯及び、小学生のいる世帯から無作為に抽出し、郵送による調査依頼、WEBでの回答で実施しました。

(2) 調査の配布・回収状況からみた調査信頼度

調査によるそれぞれの配布・回答状況は、以下のとおりです。

ニーズ調査では、各種の教育・保育事業のニーズ量を推計することから、調査の信頼度（95%）が求められています。今回の調査では、信頼度の必要サンプル数を上回る0～2歳で1,101人、3～5歳で1,112人、小学1～3年生で1,570人、小学4～6年生で1,456人から回答をいただきました。

図表 1.2 調査票の配布・回収状況

保護者	地区	配布数	回収数	回収率
就学前児童	市全域	4,000人	2,224人	55.6%
	0～2歳	2,030人	1,101人	54.2%
	3～5歳	1,970人	1,112人	56.4%
	年齢不詳	—	11人	—
小学生	市全域	6,498人	3,026人	46.6%
	1～3年生	3,237人	1,570人	48.5%
	4～6年生	3,261人	1,456人	44.6%
	年齢不詳	—	—	—

図表 1.3 調査の信頼度

保護者	地区	対象者数	回収数	必要サンプル数
就学前児童	市全域	5,503人	2,224人	359人
	0～2歳	2,479人	1,101人	333人
	3～5歳	3,024人	1,112人	341人
小学生	市全域	6,498人	3,026人	363人
	1～3年生	3,237人	1,570人	344人
	4～6年生	3,261人	1,456人	344人

■ 社会調査信頼度の95%の計算式

$$n = \frac{N}{\left(\frac{E}{K}\right) \times \frac{N-1}{P(1-P)} + 1}$$

- ※ n : サンプル数
- N : 全体の人数（母集団）
- E : 許容できる誤差の範囲
- P : 母比率 = 0.5 （50%のときに最大のサンプル数となるため）
- K : 信頼度係数 = 1.96 （通常、信頼度95%を基準とするため）

4 報告書の見方について

(1) 年齢・学年の定義

就学前児童・小学生の年齢定義は、ニーズ調査において誕生日の年月を回答しているため、下表による年齢区分により集計を行いました。

図表 1.4 ニーズ調査における年齢・学年定義

年齢区分	該当する生年月	年齢区分	該当する生年月
0歳児	令和5年4月以降	1年生	平成29年4月～平成30年3月
1歳児	令和4年4月～令和5年3月	2年生	平成28年4月～平成29年3月
2歳児	令和3年4月～令和4年3月	3年生	平成27年4月～平成28年3月
3歳児	令和2年4月～令和3年3月	4年生	平成26年4月～平成27年3月
4歳児	平成31年4月～令和2年3月	5年生	平成25年4月～平成26年3月
5歳児	平成30年4月～平成31年3月	6年生	平成24年4月～平成25年3月

(注) 調査期間【令和6年度】における年齢定義

(2) 電算処理等の注意点

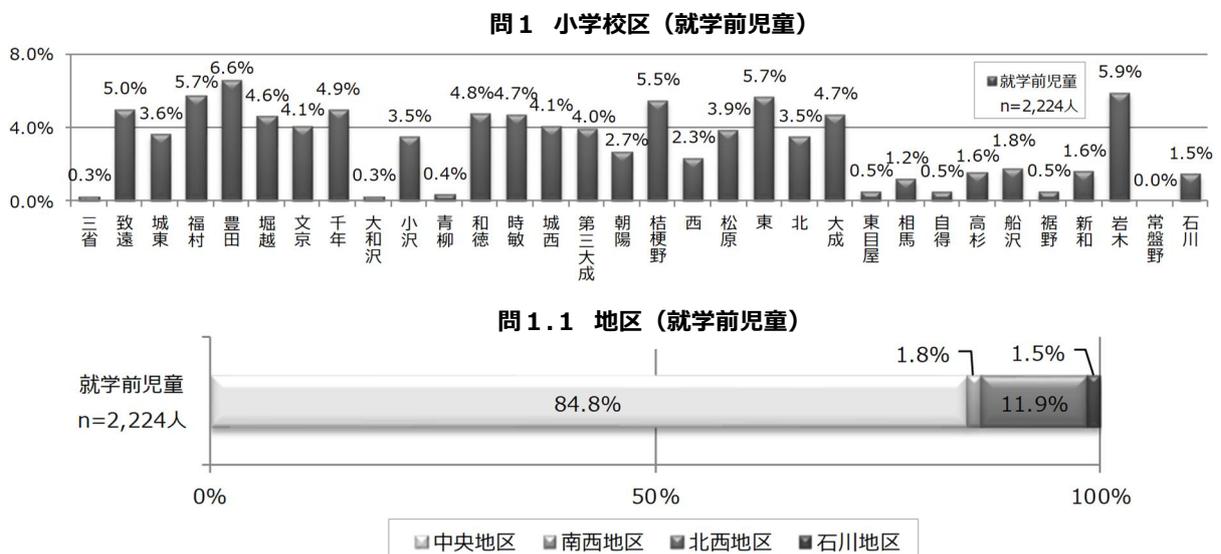
調査結果の数値については小数点第2位以下を四捨五入しているため、内訳を合計しても100%に合致しない場合があります。

なお、回答数が少ない場合、コメントの記載を省略している場合があります。

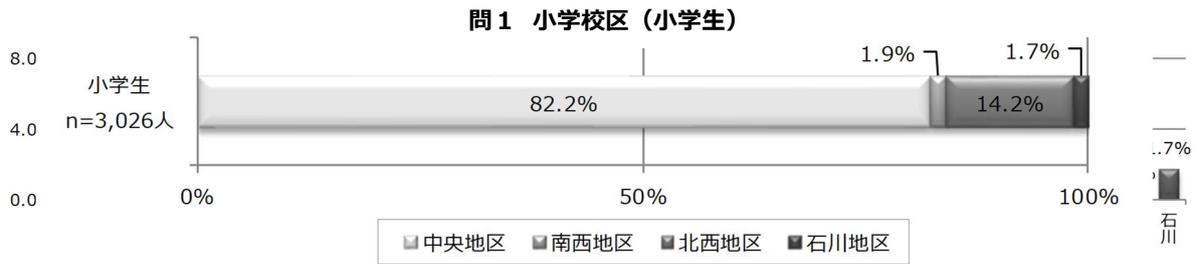
5 調査対象者の属性・家族状況

(1) 居住地の状況

ア. 「就学前児童」 回答者が居住している地域の状況は以下のとおりです。



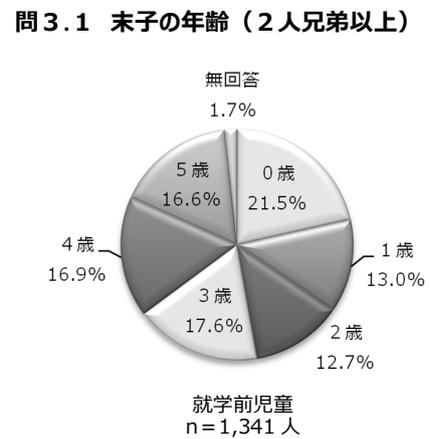
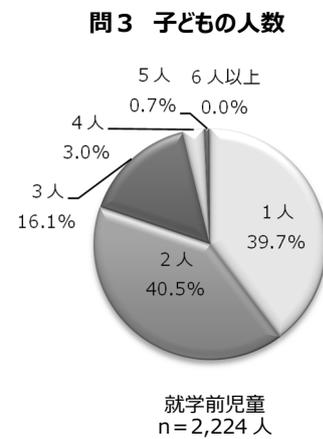
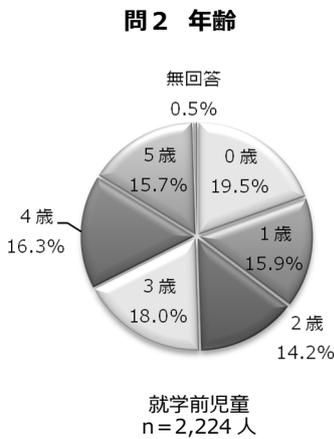
イ. 「小学生」 回答者が居住している地域の状況は以下のとおりです。



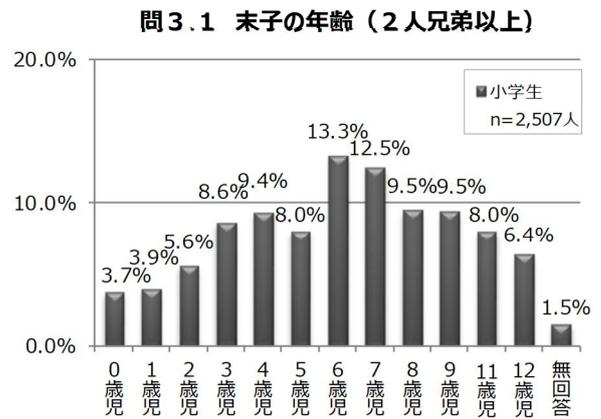
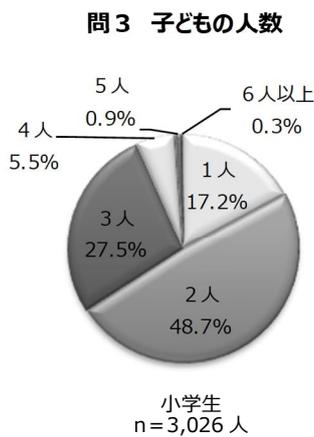
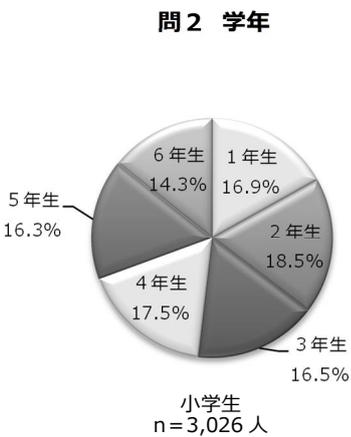
問1.1 地区 (小学生)

(2) 児童の属性

ア. 「就学前児童」 回収された 2,224 件の就学前児童の属性は以下のとおりです。



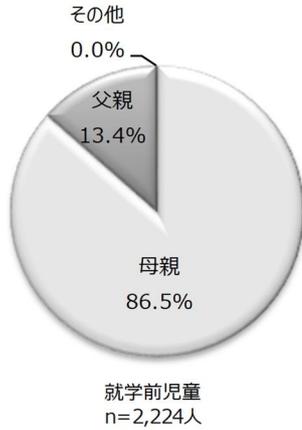
イ. 「小学生学児童」 回収された 3,026 件の小学生の属性は以下のとおりです。



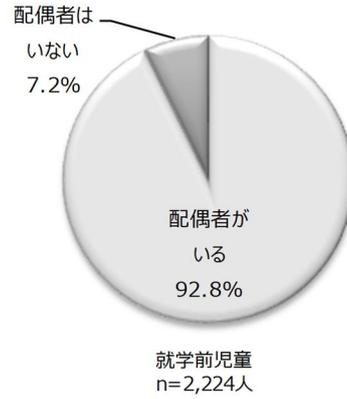
(3) 調査回答者の状況と配偶者有無

ア. 「就学前児童」 この調査の回答者は、次のとおりです。

問4 調査回答者

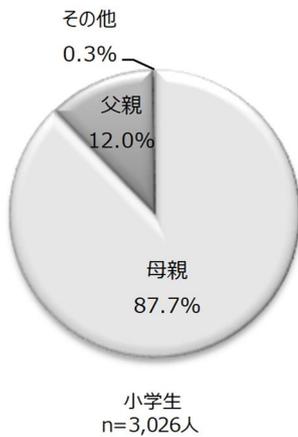


問5 配偶者の有無

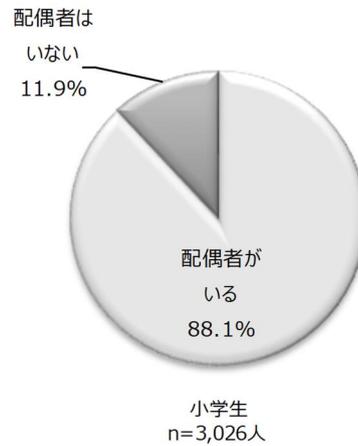


イ. 「小学生」 この調査の回答者は、次のとおりです。

問4 調査回答者



問5 配偶者の有無



6 利用できる子育て支援サービスの種類

弘前市の子育て家庭が現在利用できる環境にある、子育て支援サービスは下表のとおりです。

図表 1.5 弘前市で利用できる環境にある教育・保育事業と地域の子育て支援事業

分類	子育て支援サービス名	事業の説明
(1) 幼児期の教育・保育事業		
	①幼稚園	・通常の就園時間を利用
	②幼稚園の預かり保育	・通常の就園時間を延長して預かる事業のうち、定期的な利用のみ
	③認可保育所	・国が定める最低基準に適合した施設で都道府県等の認可を受けたもの
	④認定こども園	・幼稚園と保育施設の機能を併せ持つ施設
	⑤事業所内保育施設	・企業が主に従業員用に運営する施設
	⑥その他の認可外の保育施設	・県の認可を受けていない保育施設（ベビーホテル等）
(2) 地域の子育て支援事業		
	①地域子育て支援拠点事業	・親子が集まって過ごしたり、相談したり、情報提供を受けたりする場で、「子育て支援センター」等と呼ばれる事業
	②妊婦健康診査事業	・母親とおなかの赤ちゃんの健康を守り、妊婦の状況をチェックする検診
	③乳児家庭全戸訪問事業	・生後4か月までの乳児のいる家庭を訪問し、育児に関する不安や悩みの相談に応じ、子育て支援の情報提供などを行う
	④子育て短期支援事業	・保護者が病気や仕事・出産・育児疲れなどで一時的に養育ができなくなった子どもを児童養護施設等で預かる事業
	⑤一時預かり事業	・保護者が断続的な就労や疾病・災害・看護・冠婚葬祭など、一時的に保育が必要な場合に子どもを預かる事業
	⑥延長保育事業	・保護者の就労形態等の事情により、子どもを通常の保育時間を超えて保育する事業
	⑦病児・病後児保育事業	・病中や病気の回復期にある子どもを、一時的に預かる事業
	⑧放課後児童健全育成事業	・就労などの事情により昼間保護者が家庭にいない小学生の児童に対し、放課後や長期休暇中、保護者に代わって行う保育事業

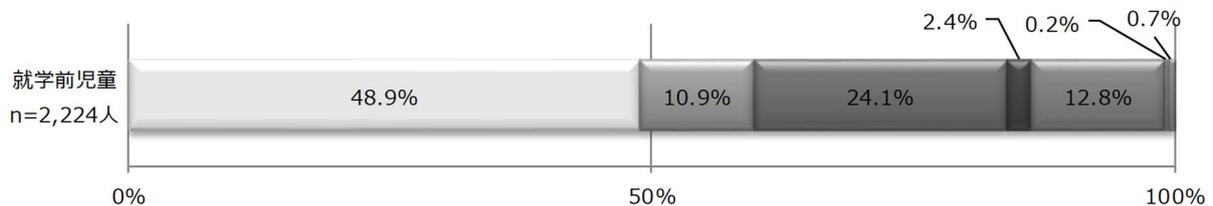
第2章 子育て家庭を取り巻く環境

1 主な保育者とその就労状況

(1) 就学前児童の母親の就労状況

就学前児童の母親の就労状況をみると、「フルタイムで就労しており、産休・育休・介護休業中ではない」(48.9%)と「パート・アルバイト等で就労しており、産休・育休・介護休業中ではない」(24.1%)を合わせた就労している人は73.0%となっています。「フルタイムで就労しているが、産休・育休・介護休業中である」(10.9%)と「パート・アルバイト等で就労しているが、産休・育休・介護休業中である」(2.4%)を合わせた産休・育休・介護休業中の人は13.3%となっています。

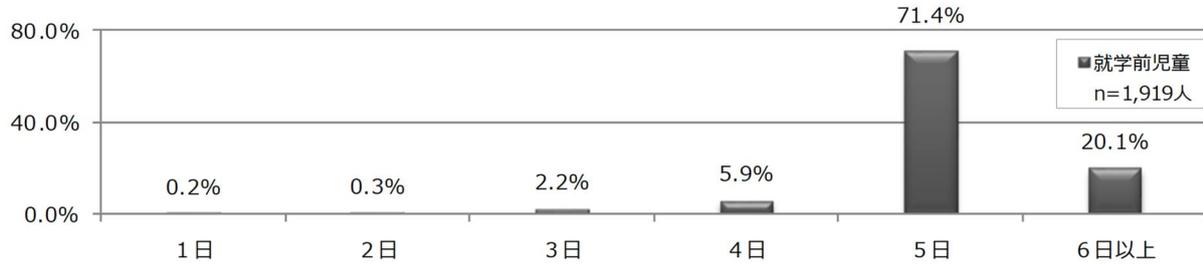
問 12 (1) 母親の就労状況



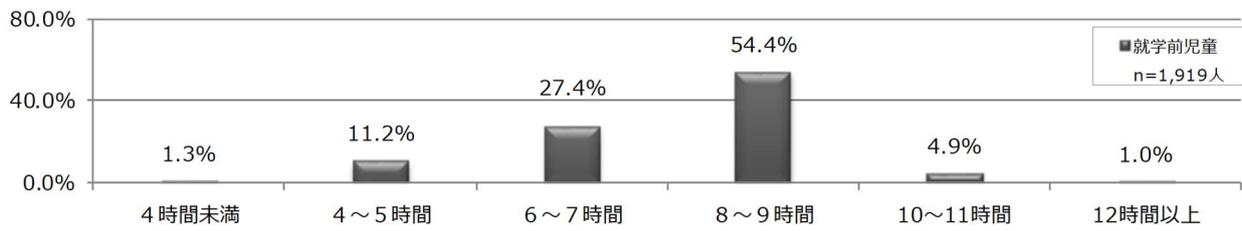
- フルタイムで就労しており、産休・育休・介護休業中ではない
- フルタイムで就労しているが、産休・育休・介護休業中である
- パート・アルバイト等で就労しており、産休・育休・介護休業中ではない
- パート・アルバイト等で就労しているが、産休・育休・介護休業中である
- 以前は就労していたが、現在は就労していない
- これまで就労したことがない
- 無回答

就学前児童の母親の就労日数、就労時間をみると、「5日」（71.4%）、「8～9時間」（54.4%）が最も多くなっています。

問 12（1）－ 1 母親の就労日数（1週当たり）



問 12（1）－ 1 母親の就労時間（1日当たり）

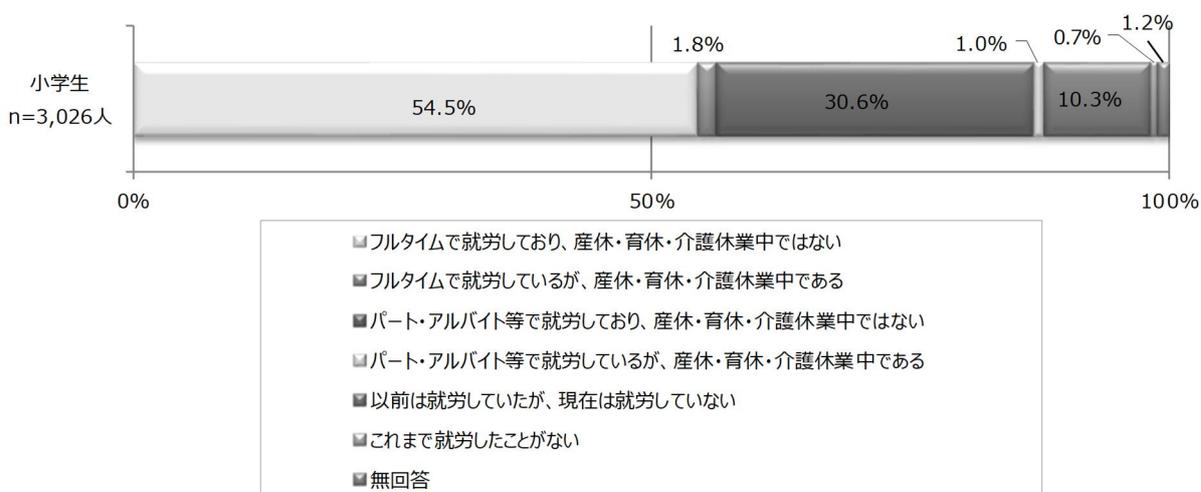


(2) 小学生の母親の就労状況

小学生の母親の就労状況をみると、「フルタイムで就労しており、産休・育休・介護休業中ではない」(54.5%)と「パート・アルバイト等で就労しており、産休・育休・介護休業中ではない」(30.6%)を合わせた就労している人は85.1%と、就学前児童の母親と比べて12.1ポイント上回っています。

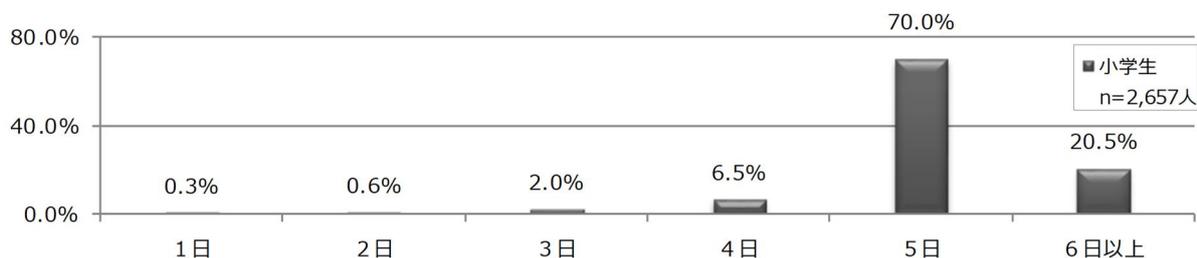
一方、「フルタイムで就労しているが、産休・育休・介護休業中である」(1.8%)と「パート・アルバイト等で就労しているが、産休・育休・介護休業中である」(1.0%)を合わせた産休・育休・介護休業中の人(2.8%)と、就学前児童の母親に比べて10.5ポイント下回っています。

問 12 (1) 母親の就労状況

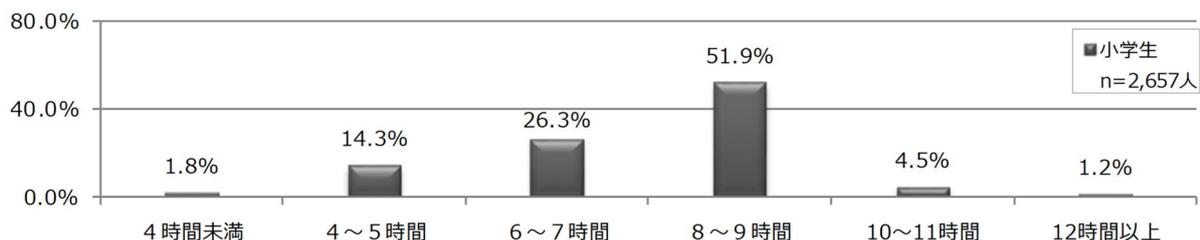


小学生の母親の就労日数、就労時間をみると、「5日」(70.0%)、「8～9時間」(51.9%)が最も多くなっています。

問 12 (1) - 1 母親の就労日数 (1週当たり)



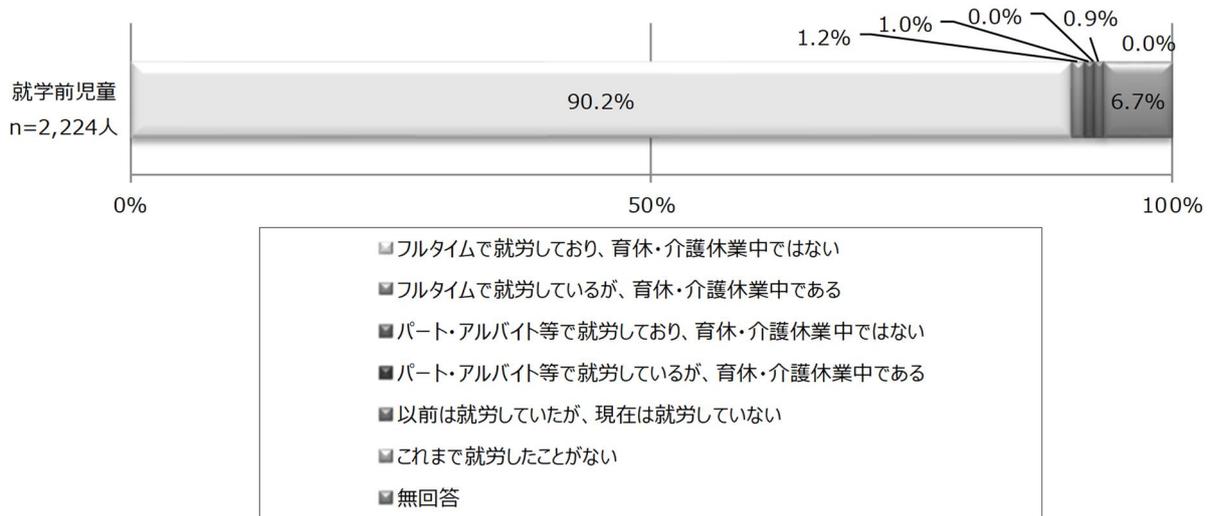
問 12 (1) - 1 母親の就労時間 (1日当たり)



(3) 就学前児童の父親の就労状況

就学前児童の父親の就労状況をみると、「フルタイムで就労しており、育休・介護休業中ではない」(90.2%) が最も多くなっています。

問 12 (2) 父親の就労状況

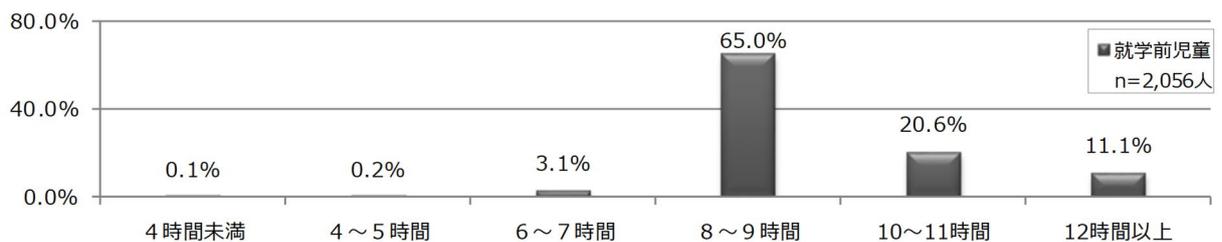


就学前児童の父親の就労日数、就労時間をみると、「5日」(60.1%)、「8～9時間」(65.0%) が最も多く、就労日数は次いで「6日以上」(37.4%)、就労時間は「10～11時間」(20.6%)、「12時間以上」(11.1%) となっています。

問 12 (2) - 1 父親の就労日数 (1週当たり)



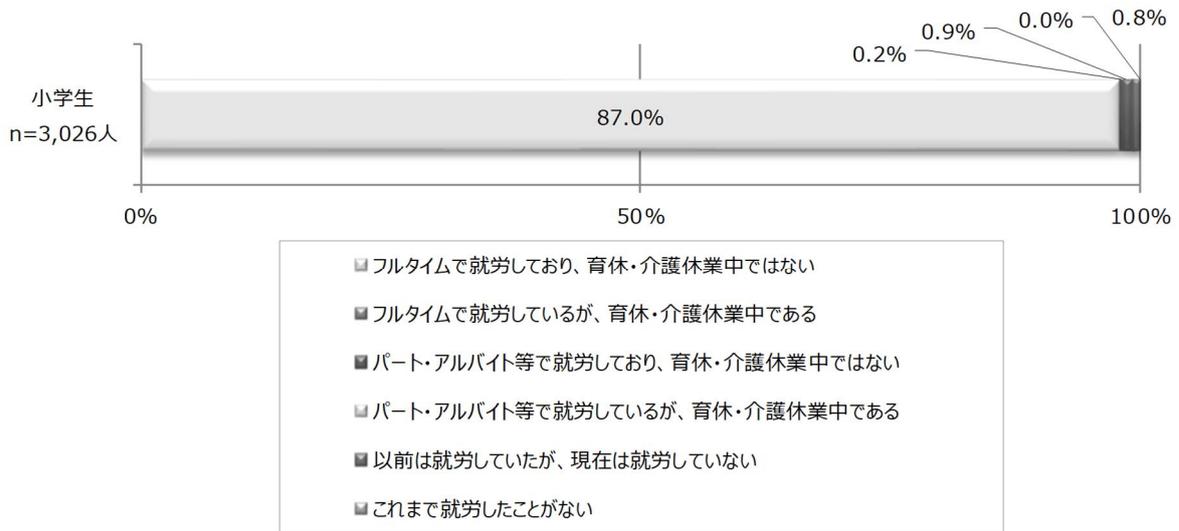
問 12 (2) - 1 父親の就労時間 (1日当たり)



(4) 小学生の父親の就労状況

小学生の父親の就労状況をみると、「フルタイムで就労しており、育休・介護休業中ではない」(87.0%)が最も多くなっています。

問 12 (2) 父親の就労状況

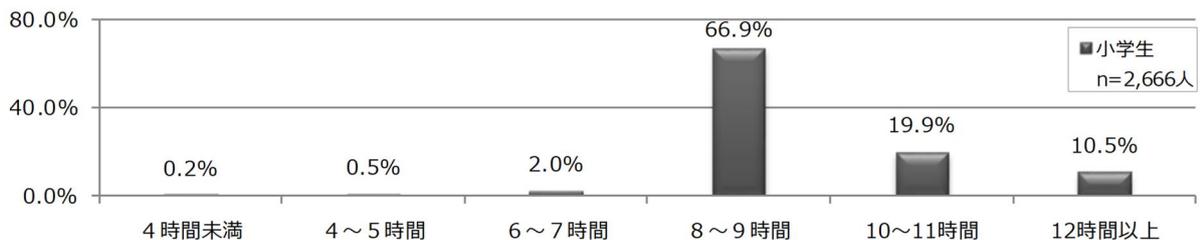


小学生の父親の就労日数、就労時間をみると、「5日」(58.7%)、「8～9時間」(66.9%)が最も多く、就労日数は次いで「6日以上」(39.4%)、就労時間は「10～11時間」(19.9%)、「12時間以上」(10.5%)となっています。

問 12 (2) - 1 父親の就労日数 (1週当たり)



問 12 (2) - 1 父親の就労時間 (1日当たり)



第3章 子育て支援サービスの現状と今後の利用希望

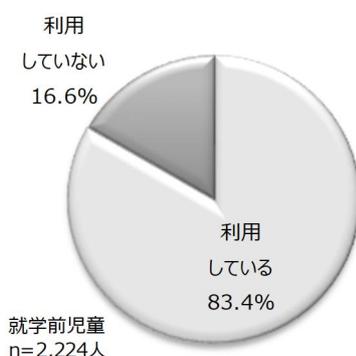
1 平日の定期的な教育・保育事業の現状と今後の利用希望

(1) 平日の定期的な教育・保育事業の利用状況

定期的な教育・保育事業（市全体）の利用状況をみると、83.4%の人が利用していると回答しています。利用中の事業としては、「認可保育所」（37.2%）、「認定こども園」（34.5%）、「幼稚園」（7.3%）、「幼稚園の預かり保育」（2.4%）、「その他の認可外の保育施設」（2.3%）の順となっています。

一方、今後の利用希望では、「認定こども園」（55.4%）、「認可保育所」（50.1%）、「幼稚園」（23.8%）、「幼稚園の預かり保育」（15.7%）の順となっており、利用中の事業と比べると、「認定こども園」、「認可保育所」、「幼稚園」、「幼稚園の預かり保育」が、ともに10ポイント以上増加しています。

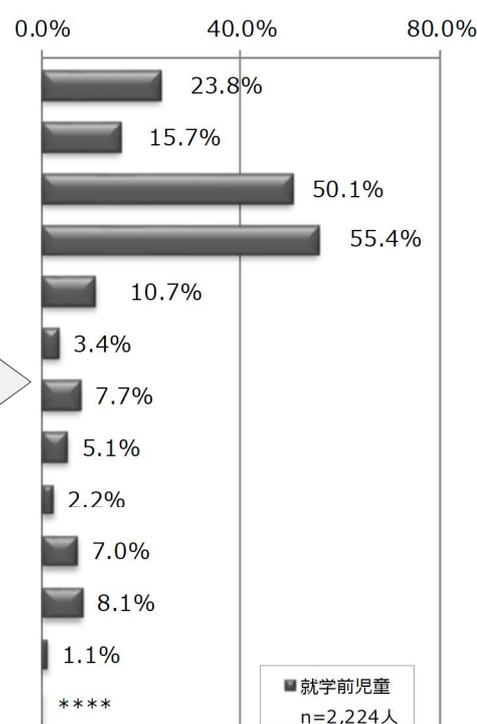
問 15 定期的な教育・保育事業の利用状況



問 15-1 現在利用中の定期的な教育・保育事業



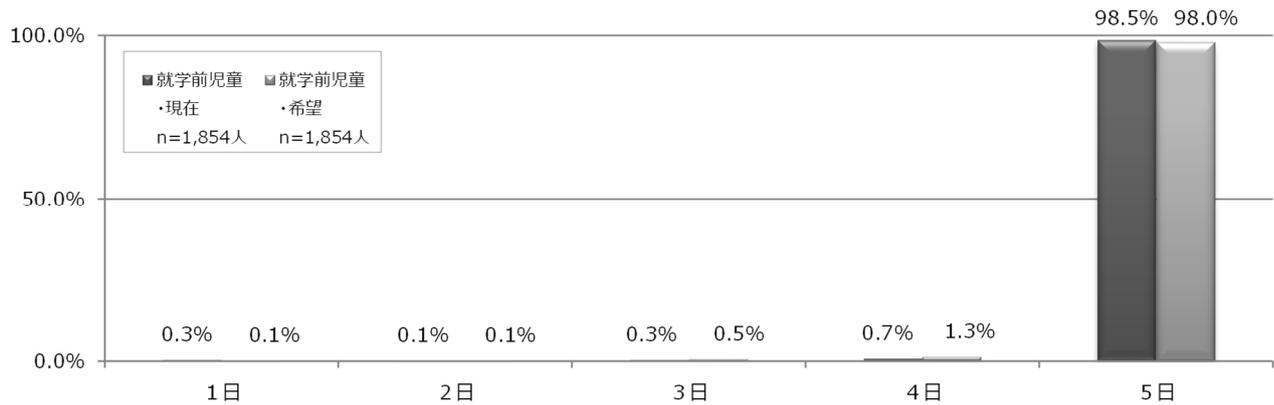
問 17 希望する定期的な教育・保育事業



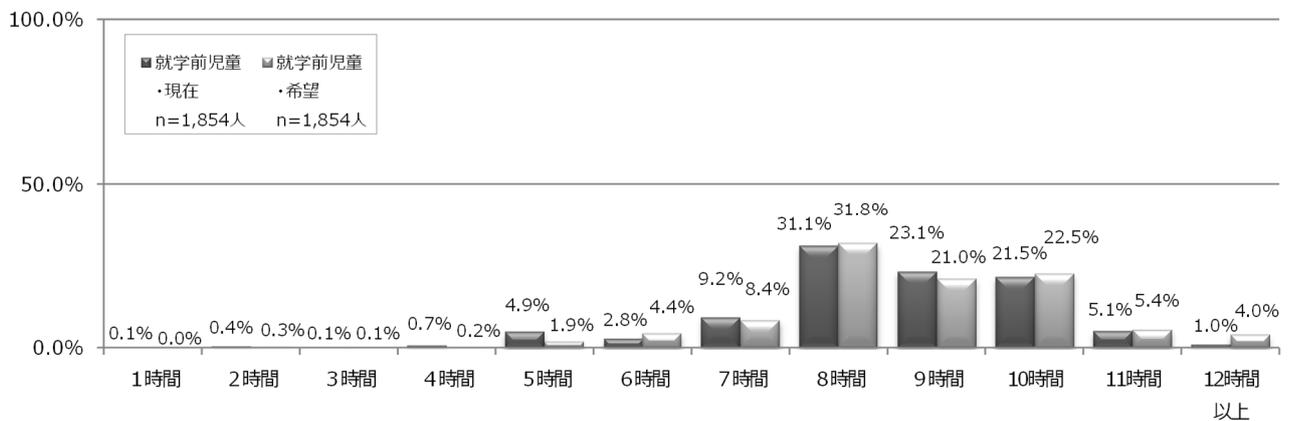
定期的な教育・保育事業（全体）の現在の利用日数と希望する利用日数（1週当たり）をみると、現在の利用日数では98.5%の人が「5日」と回答しており、希望する利用日数も同様に「5日」が98.0%となっています。

また、現在の利用時間と希望する利用時間（1日当たり）については、現在では「8時間」（31.1%）、「9時間」（23.1%）、「10時間」（21.5%）、「7時間」（9.2%）の順となっており、希望では「8時間」（31.8%）、「10時間」（22.5%）、「9時間」（21.0%）、「7時間」（8.4%）と、現在と比べると、希望では「8時間」と「10時間」がわずかに多くなっています。

問 15 – 2.1 定期的な教育・保育事業の利用日数（現在及び希望・1週当たり）



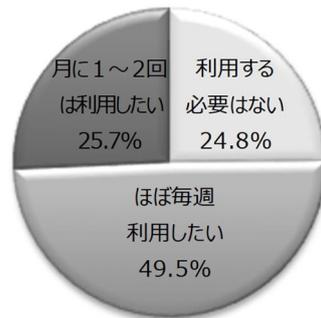
問 15 – 2.2 定期的な教育・保育事業の利用時間（現在及び希望・1日当たり）



(2) 休日の教育・保育の利用意向

定期的な教育・保育事業の土曜日の利用希望をみると、「ほぼ毎週利用したい」（49.5%）が最も多く、「月に1～2回は利用したい」（25.7%）と合わせると75.2%の人が利用を希望しています。

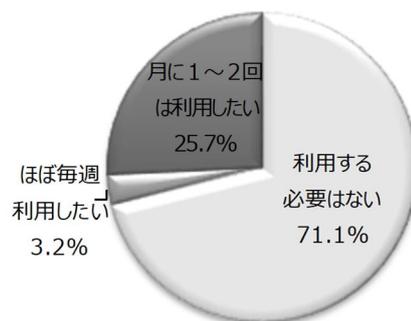
問 21 (1) 土曜日の利用希望



就学前児童
n=2,224人

定期的な教育・保育事業の日曜・祝日の利用希望をみると、「月に1～2回は利用したい」（25.7%）、「ほぼ毎週利用したい」（3.2%）を合わせると28.9%の人が利用を希望しています。

問 21 (2) 日曜・祝日の利用希望



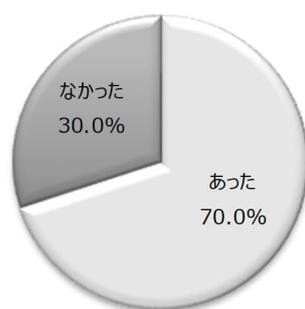
就学前児童
n=2,224人

(3) 就学前児童の病児・病後児保育事業の潜在ニーズ

就学前児童の定期的な教育・保育事業を利用している人のうち、この1年間に病気やケガで通常の教育・保育事業が利用できなかった経験がある人は70.0%となっています。

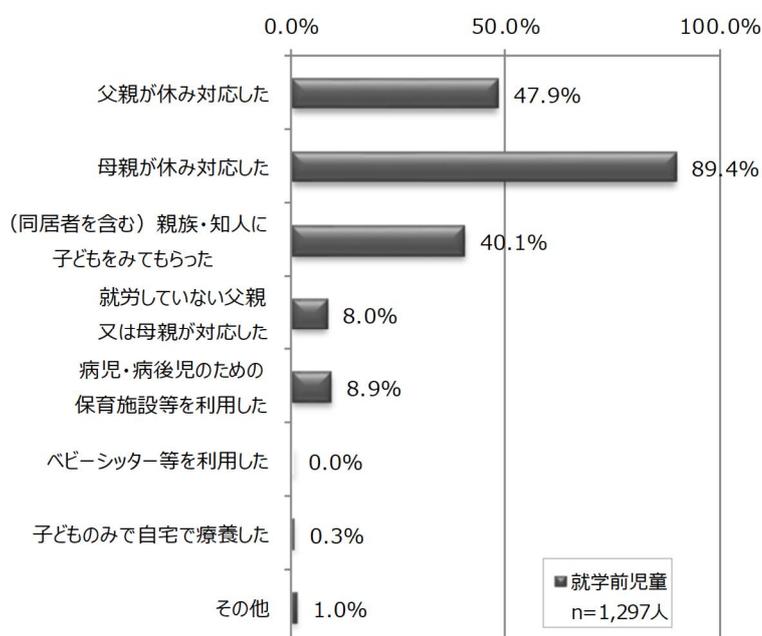
その際の対処方法は、『母親が休み対応した』(89.4%)、『父親が休み対応した』(47.9%)『(同居者を含む)親族・知人に子どもをみてもらった』(40.1%)の順となっています。

問 23 病気やケガで通常の事業が利用できなかったことの有無



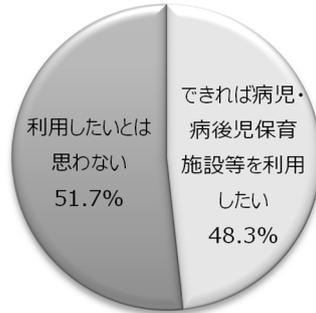
就学前児童
n=1,854人

問 23-1 この1年間の対処方法



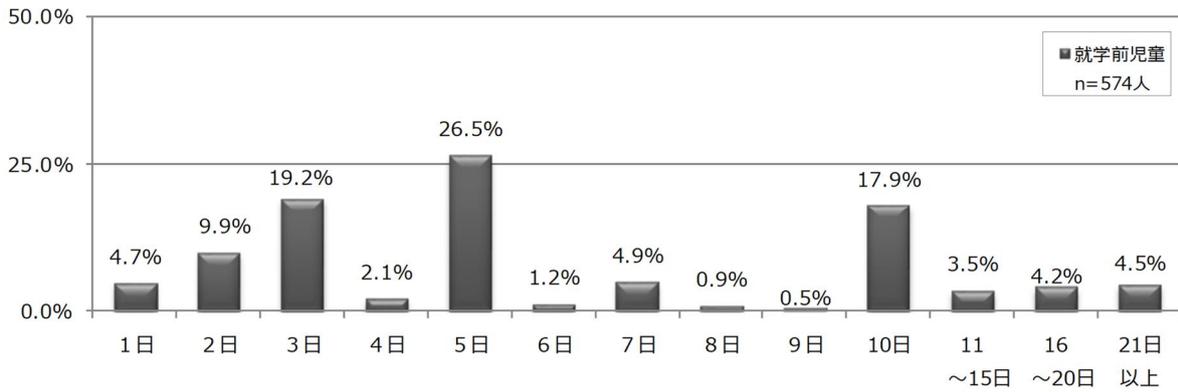
就学前児童の父親・母親のいずれかが休んだ際の病児・病後児保育施設の利用意向をみると、「できれば病児・病後児保育施設等を利用したい」が 48.3%となっており、利用希望日数は「5日」(26.5%)、「3日」(19.2%)、「10日」(17.9%)の順となっています。

問 23-2 父親・母親のいずれかが休んだ際の病児・病後児保育施設利用意向



就学前児童
n=1,189人

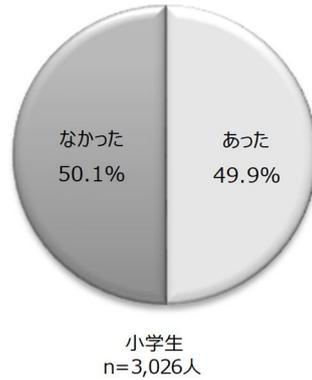
問 23-2.1. 病児・病後児保育施設の利用希望日数



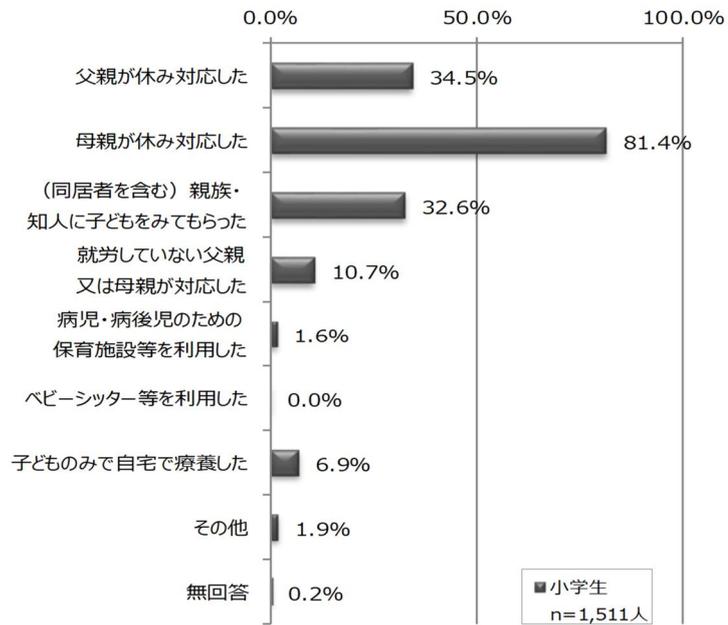
(4) 小学生の病児・病後児保育事業の潜在ニーズ

小学生のこの1年間に病気やケガで通学できなかった経験がある人は49.9%となっています。
 その際の対処方法は、『母親が休み対応した』(81.4%)、『父親が休み対応した』(34.5%)、『(同居者を含む)親族・知人に子どもをみてもらった』(32.6%)の順となっています。

問 13 病気やケガで、通学できなかったことの有無



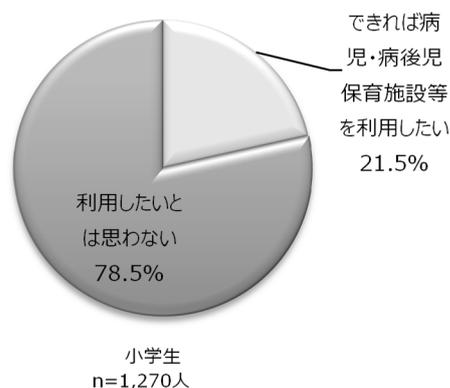
問 13-1 この1年間の対処方法



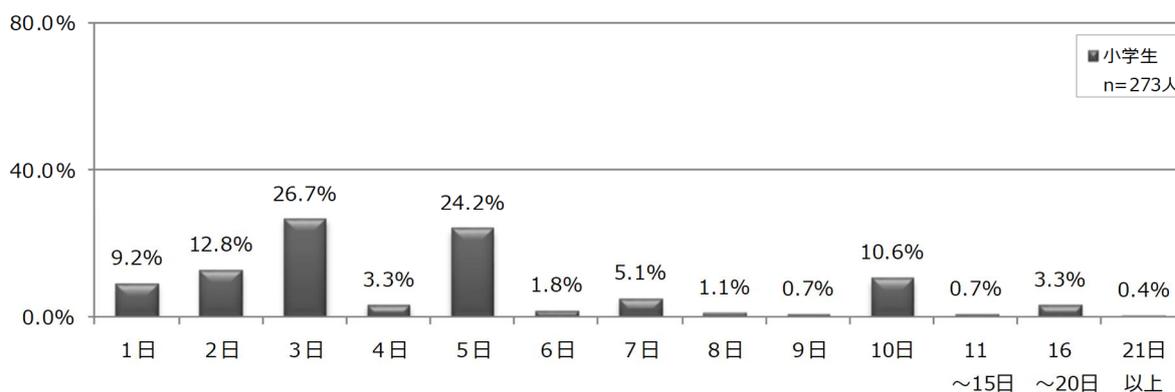
小学生の父親・母親のいずれかが休んだ際の病児・病後児保育施設の利用意向をみると、「できれば病児・病後児保育施設等を利用したい」は 21.5%と、就学前児童に比べて 26.8 ポイント下回っています。

利用希望日数は「3日」(26.7%)、「5日」(24.2%)、「2日」(12.8%)、「10日」(10.6%)、「1日」(9.2%)の順となっています。

問 13-2 父親・母親のいずれかが休んだ方の休んだ際における病児・病後児保育施設利用意向



問 13-2.1 病児・病後児保育施設の利用希望日数



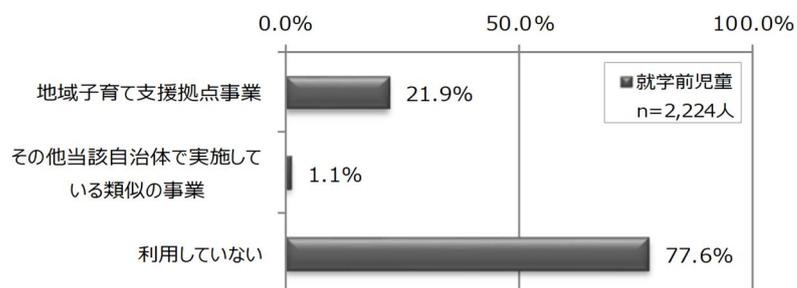
2 地域の子育て支援事業の現状と今後の利用意向

(1) 地域子育て支援拠点事業の利用について

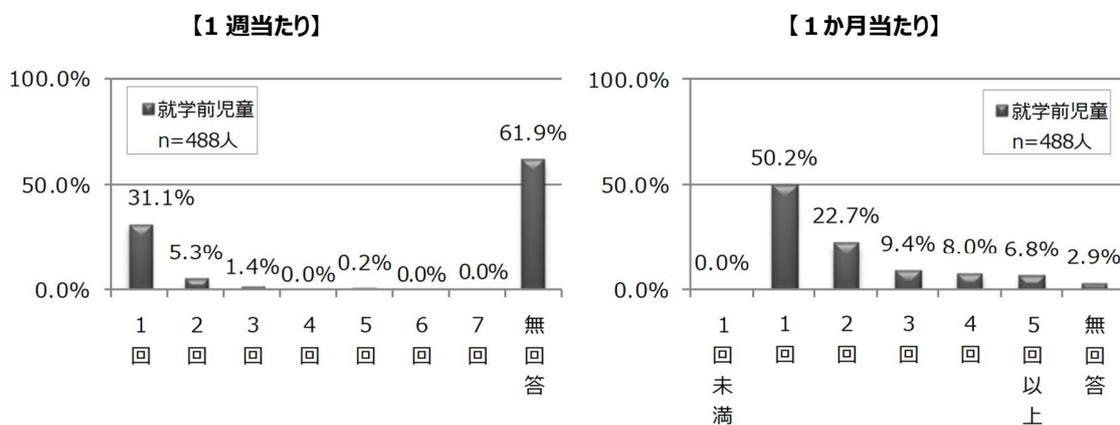
就学前児童の地域子育て支援拠点事業の利用状況をみると、21.9%の人が利用しています。「その他当該自治体で実施している類似の事業」の利用は1.1%となっています。

地域子育て支援拠点事業の1週当たりの利用回数は、「1回」(31.1%)が最も多く、次いで「2回」(5.3%)となっており、1か月当たりの利用回数は、「1回」(50.2%)、「2回」(22.7%)、「3回」(9.4%)の順となっています。

問 18 地域子育て支援拠点事業の利用状況



問 18.1 地域子育て支援拠点事業の利用回数

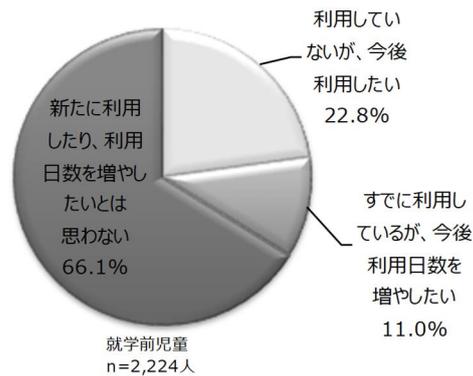


利用に関する希望をみると、「利用していないが、今後利用したい」(22.8%)、「利用していないが、今後利用したい」(22.8%)を合わせると33.8%の人が利用を希望しています。

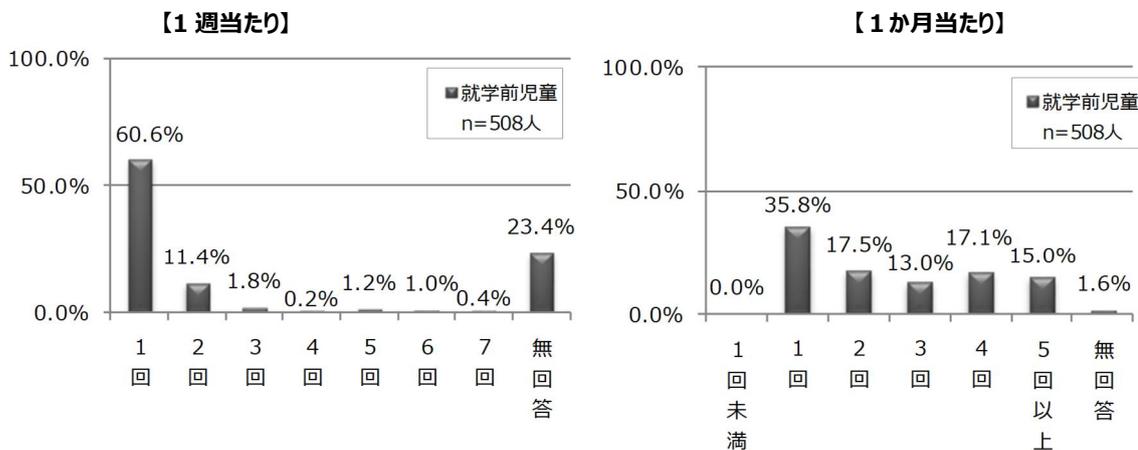
また、未利用者の1週当たりの利用希望回数は、「1回」(60.6%)、1か月当たりの利用希望回数は、「1回」(35.8%)、「2回」(17.5%)、「4回」(17.1%)となっています。

利用者の増やしたい1週当たりの利用回数は、「1回」(35.1%)、1か月当たりの利用回数は、「2回」(28.2%)、「1回」(23.3%)、「4回」(20.0%)となっています。

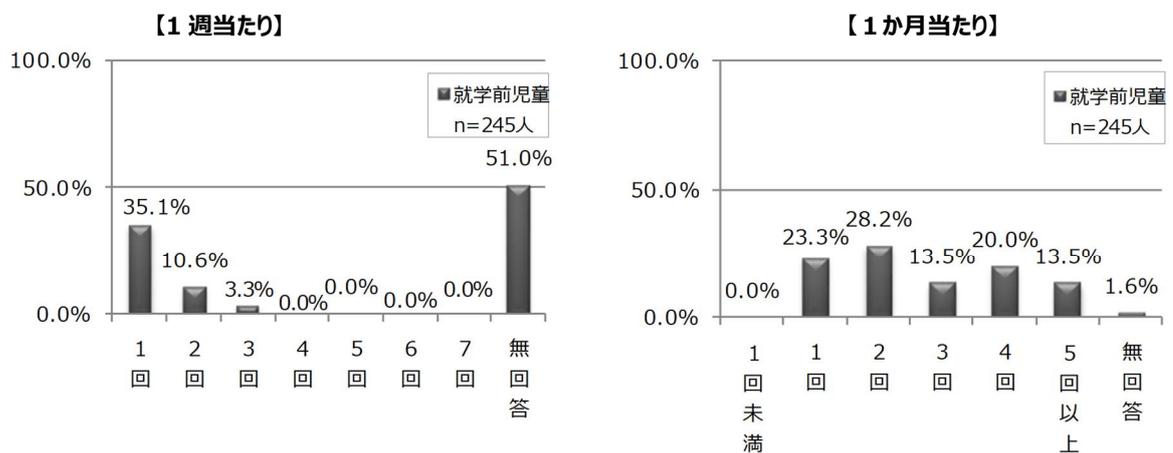
問 19 利用に関する希望



問 19.1 未利用者の利用希望回数



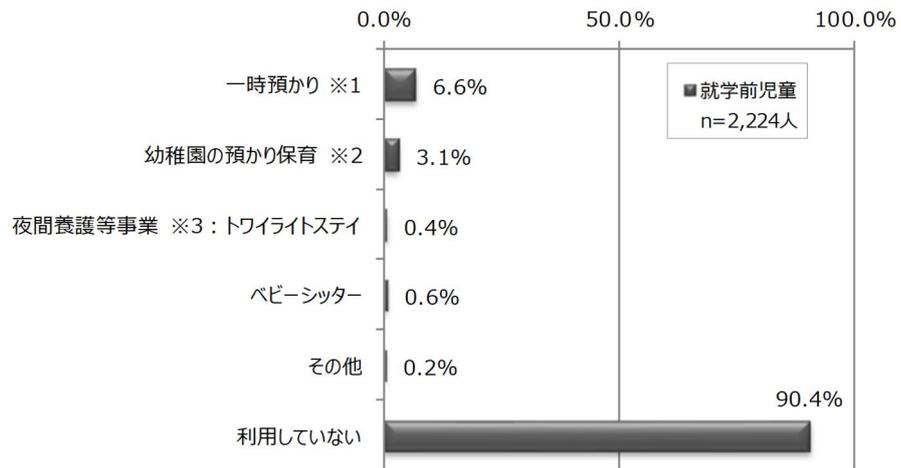
問 19.2 利用者の増やしたい回数



(2) 就学前児童の不定期の一時保育の利用について

就学前児童の不定期の一時保育事業の利用状況を見ると、「一時預かり」（6.6%）、「幼稚園の預かり保育」（3.1%）と続き、「利用していない」が約9割を占めています。

問 26 不定期の一時保育事業の利用状況



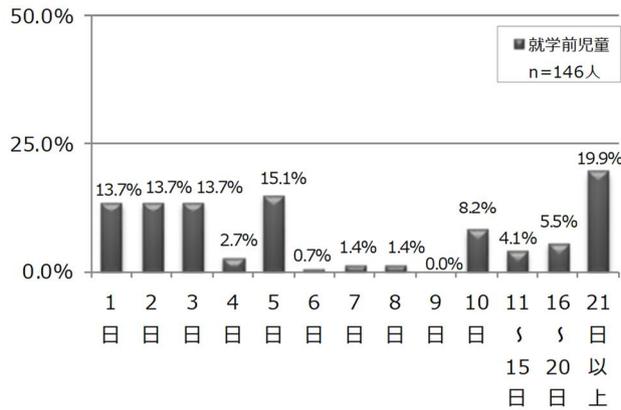
就学前児童の『一時預かり』に預けた年間日数は、「21 日以上」（19.9%）、「5 日」（15.1%）、「1 日」、「2 日」、「3 日」（ともに 13.7%）の順となっています。

『幼稚園の預かり保育』に預けた年間日数は、「21 日以上」（23.5%）、「1 日」、「5 日」、「10 日」（ともに 11.8%）、「2 日」、「11～15 日」（ともに 10.3%）の順となっています。

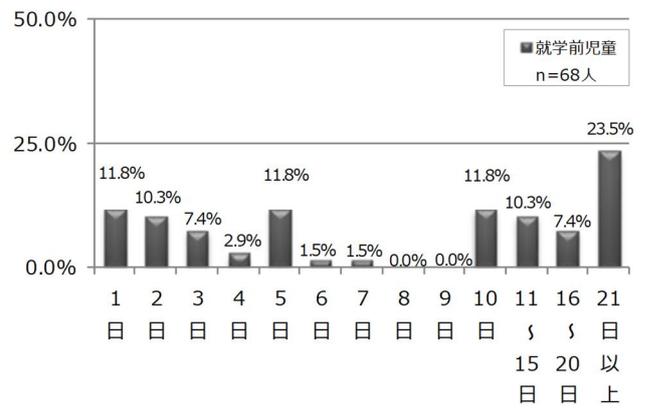
『夜間養護等事業：トワイライトステイ』に預けた年間日数は、「1 日」、「3 日」（ともに 25.0%）、「2 日」、「5 日」、「7 日」、「21 日以上」（ともに 12.5%）の順となっています。

『ベビーシッター』に預けた年間日数は、「21 日以上」（30.6%）、「1 日」、「5 日」、「11～15 日」（ともに 15.4%）の順となっています。

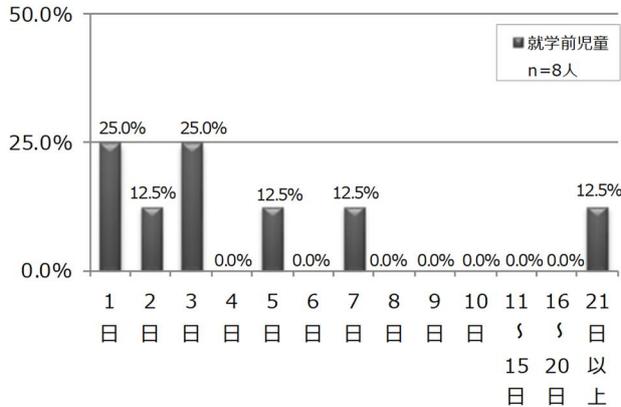
問 26.1 一時預かりに預けた日数（年間）



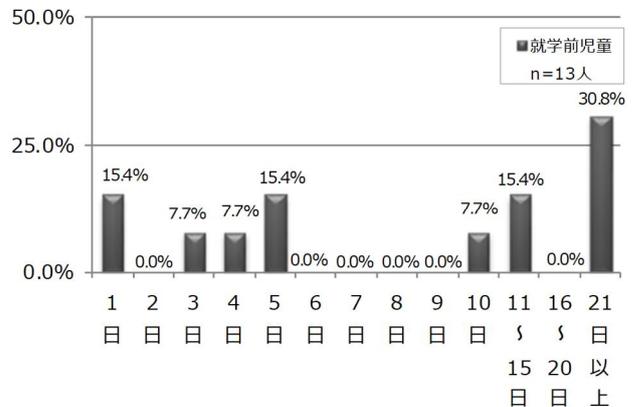
問 26.2 幼稚園の預かり保育（年間）



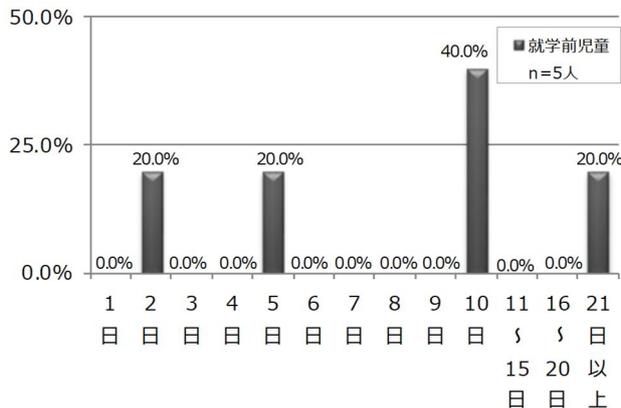
問 26.3 夜間養護等事業：トワイライトステイ（年間）



問 26.4 ベビーシッター（年間）



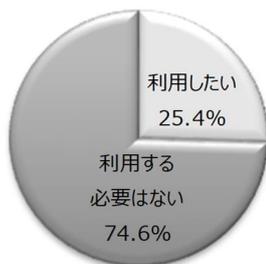
問 26.5 その他（年間）



就学前児童の親の私用、通院、不定期就労などの目的による一時保育事業の利用希望をみると、25.4%の人が利用を希望しています。

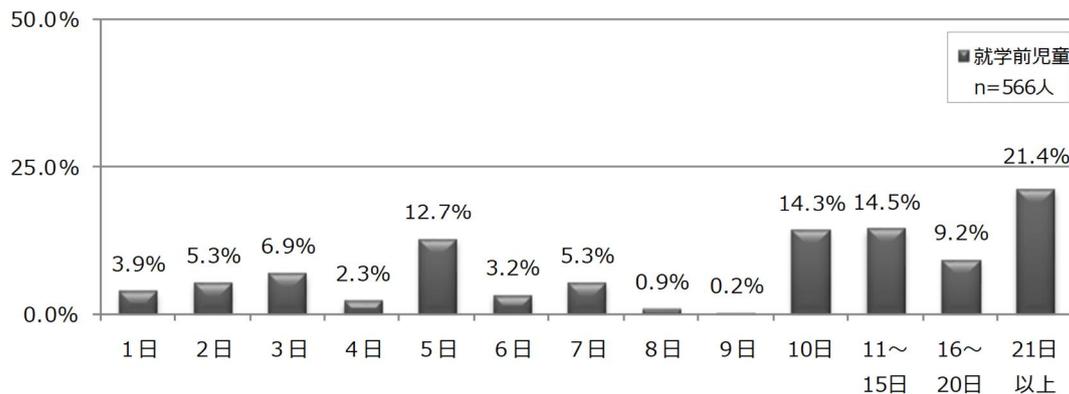
年間の利用希望合計日数は、「21 日以上」（21.4%）、「11～15 日」（14.5%）、「10 日」（14.3%）、「5 日」（12.7%）の順となっています。

問 27 一時保育事業の利用希望



就学前児童
n=2,224人

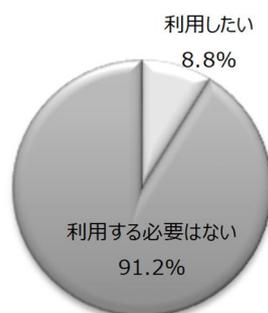
問 27.1 利用希望年間合計日数



就学前児童の保護者の用事による短期入所生活援助事業（ショートステイ）の利用希望をみると、8.8%の人が利用を希望しています。

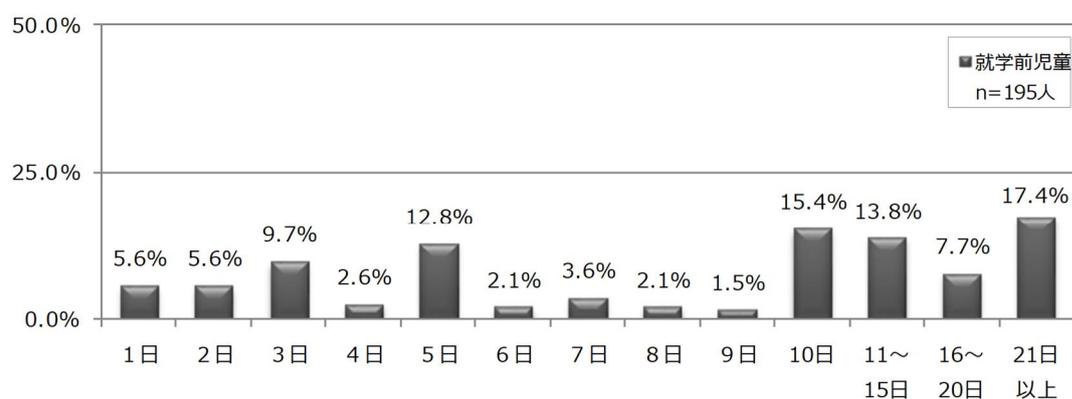
年間の利用希望合計日数は、「21 日以上」（17.4%）、「10 日」（15.4%）、「11～15 日」（13.8%）、「5 日」（12.8%）の順となっています。

問 28 短期入所生活援助事業（ショートステイ）の利用希望



就学前児童
n=2,224人

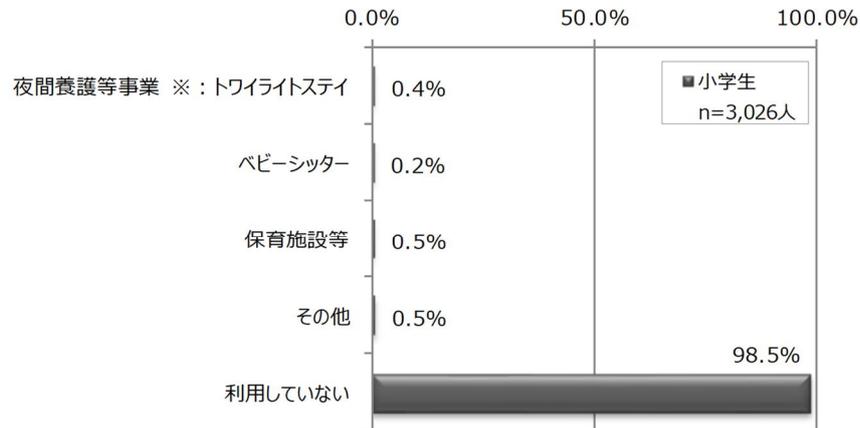
問 28.1 利用希望年間合計日数



(3) 小学生の不定期の一時保育事業の利用について

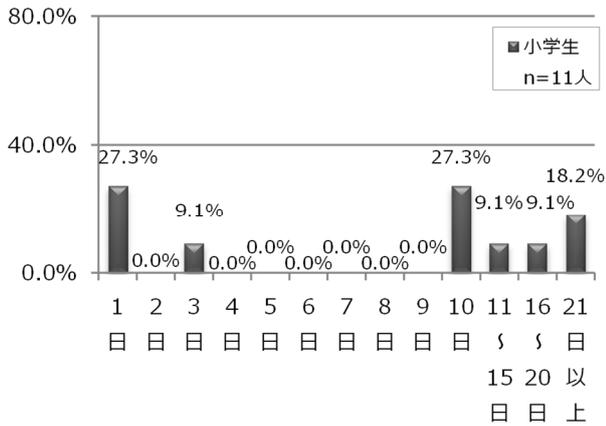
小学生の不定期の一時保育事業の利用状況をみると、「保育施設等」(0.5%)、「夜間養護等事業：トワイライトステイ」(0.4%)、「ベビーシッター」(0.2%)と続き、「利用していない」が98.5%を占めています。

問 16 不定期の一時保育事業の利用状況

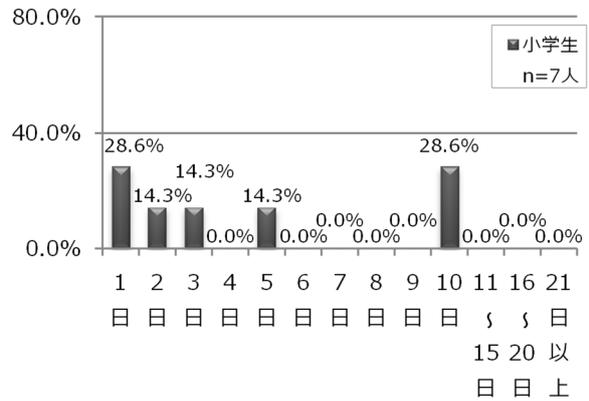


小学生の『夜間養護等事業：トワイライトステイ』に預けた年間日数は、「1日」、「10日」（ともに27.3%）、『ベビーシッター』に預けた年間日数は、「1日」、「10日」（ともに28.6%）、『保育施設等』に預けた年間日数は「10日」、「21日以上」（ともに35.7%）となっています。

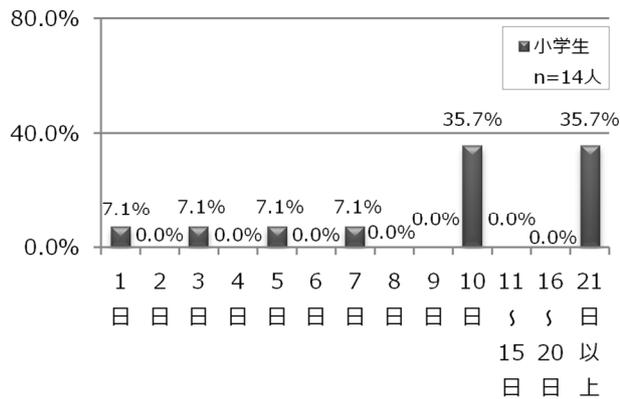
問 16.1 夜間養護等事業：トワイライトステイ（年間）



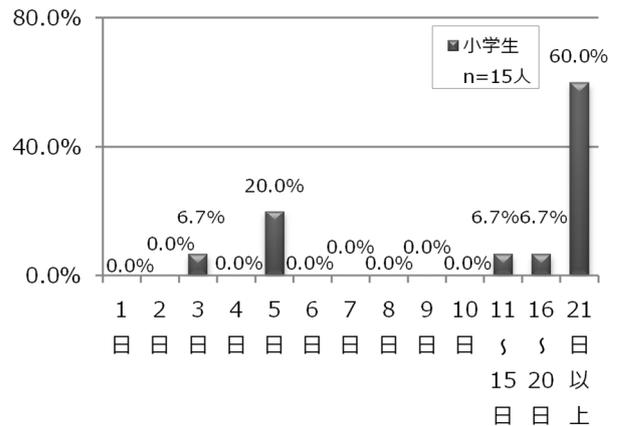
問 16.2 ベビーシッター（年間）



問 16.3 保育施設等（年間）



問 16.4 その他（年間）



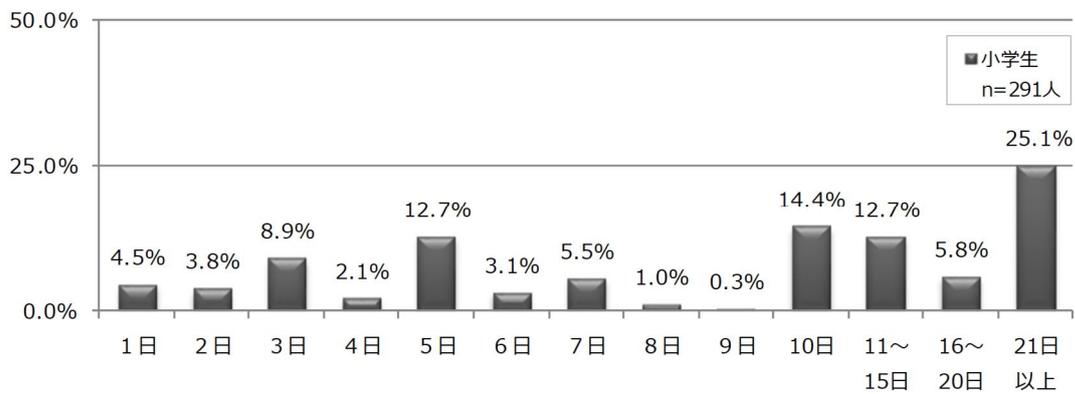
小学生の親の私用、通院、不定期就労などの目的による一時保育事業の利用希望をみると、9.6%の人が利用を希望しています。

年間の利用希望合計日数は、「21 日以上」(25.1%)、「10 日」(14.4%)、「5日」、「11～15 日」(ともに 12.7%) の順となっています。

問 17 一時保育事業の利用希望



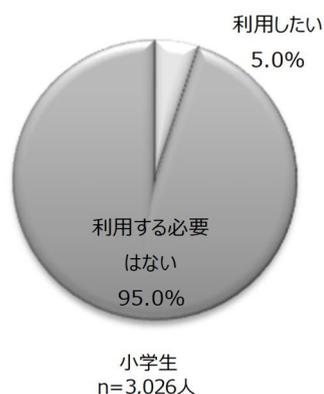
問 17.1 利用希望年間合計日数



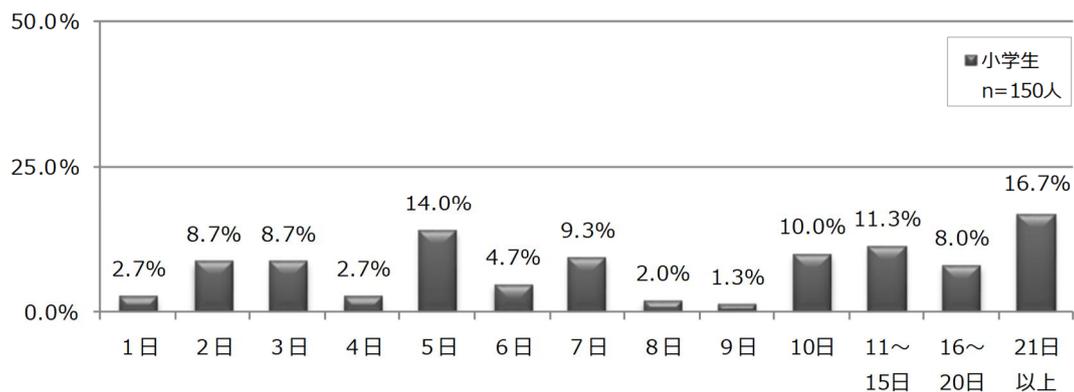
小学生の保護者の用事による短期入所生活援助事業（ショートステイ）の利用希望をみると、5.0%の人が利用を希望しています。

年間の利用希望合計日数は、「21 日以上」（16.7%）、「5 日」（14.0%）、「11～15 日」（11.3%）、「10 日」（10.0%）の順となっています。

問 18 短期入所生活援助事業（ショートステイ）の利用希望



問 18.1 利用希望年間合計日数



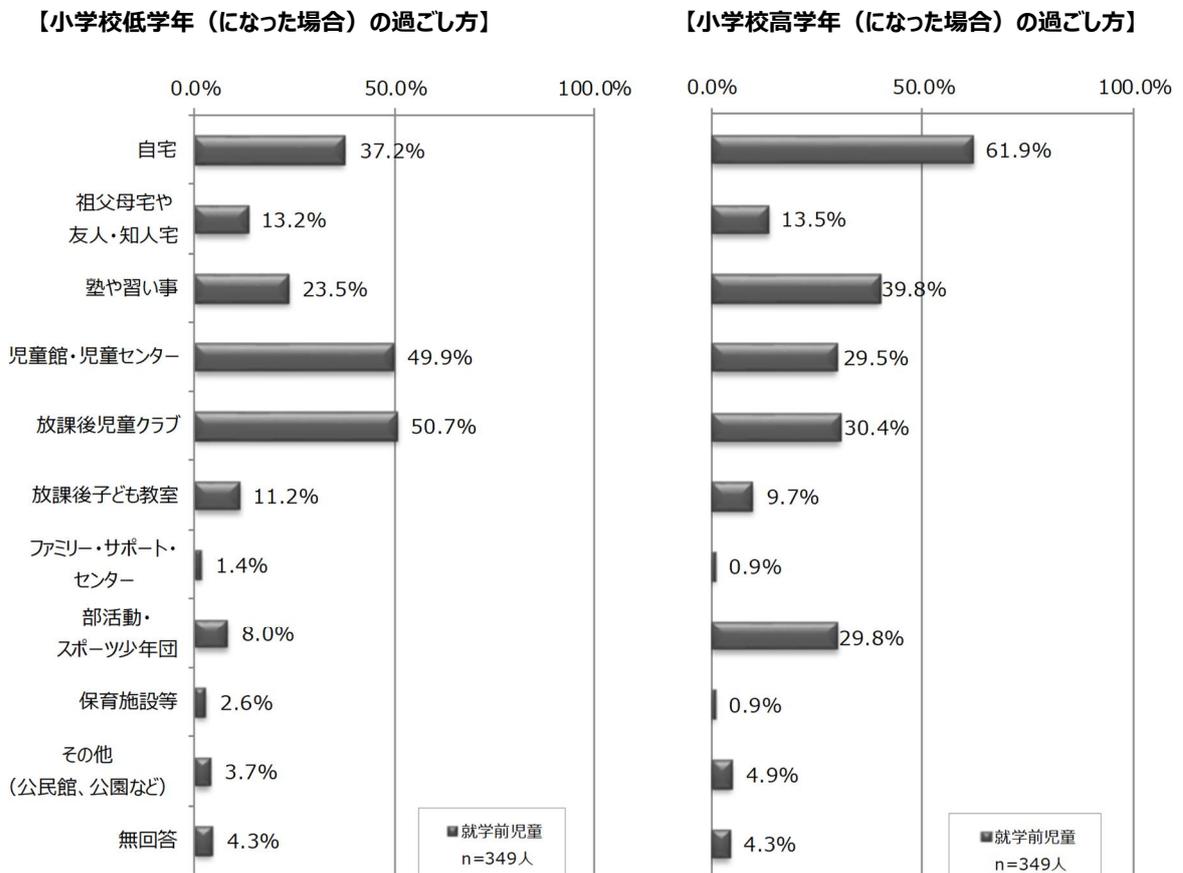
3 放課後の過ごし方について

(1) 就学前児童の平日の放課後の過ごし方について

就学前児童の就学後の希望する放課後の過ごし方をみると、小学校低学年になった場合の過ごし方の希望は、「放課後児童クラブ」(50.7%)、「児童館・児童センター」(49.9%)が多く、次いで「自宅」(37.2%)、「塾や習い事」(23.5%)、「祖父母宅や友人・知人宅」(13.2%)の順となっています。

小学校高学年になった場合の過ごし方の希望は、「自宅」(61.9%)が最も多く、次いで「塾や習い事」(39.8%)、「放課後児童クラブ」(30.4%)、「部活動・スポーツ少年団」(29.8%)、「児童館・児童センター」(29.5%)となっており、高学年期になると「塾や習い事」や「部活動・スポーツ少年団」への希望が増えています。

問 29・問 30 放課後の過ごし方の希望



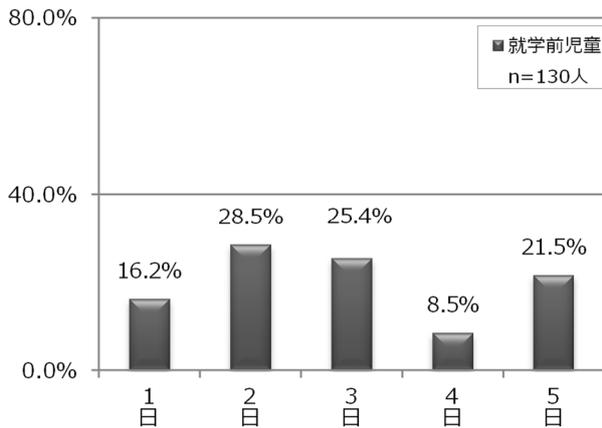
※「小学校低学年」は1～3年生、「小学校高学年」は4～6年生を意味しています。

就学前児童の保護者が放課後を過ごさせたい1週（または1か月）当たりの希望日数をみると、低学年期では、『児童館・児童センター』、『放課後児童クラブ』、『保育施設等』は「5日」が最も多く、半数以上となっています。『放課後子ども教室』は「5日」（23.1%）、「2日」（20.5%）、「16～20日」（17.9%）の順となっています。

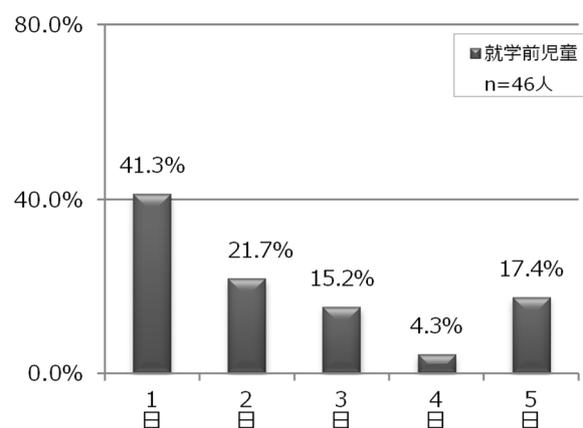
高学年期では、低学年期と同様、『児童館・児童センター』、『放課後児童クラブ』は「5日」が最も多く、さらに『自宅』も「5日」（31.9%）が最も多くなっています。

①放課後の過ごし方【小学校低学年の時期】

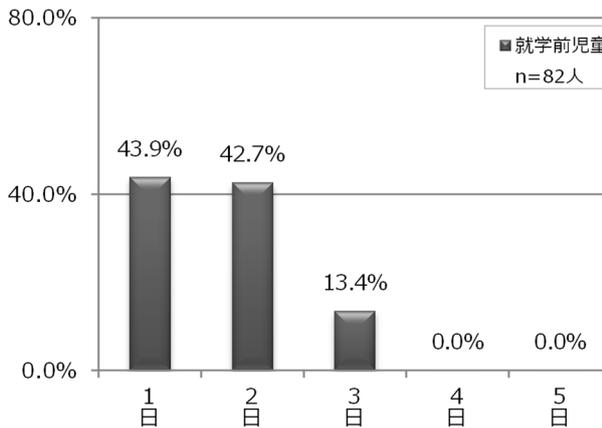
問 29.1 自宅の希望日数（1週当たり）



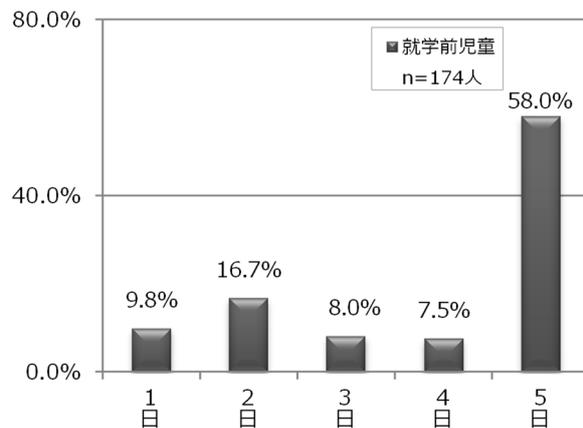
問 29.2 祖父母宅や友人・知人宅の希望日数（1週当たり）



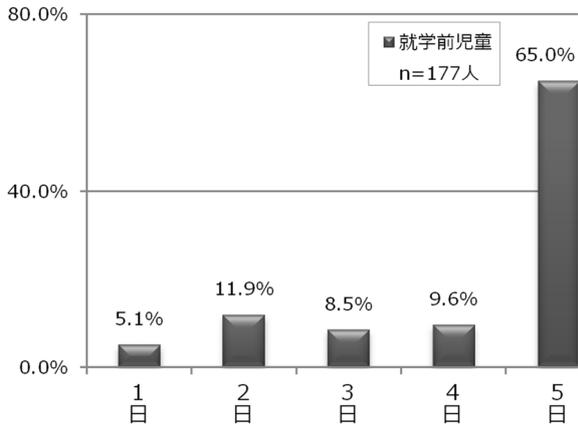
問 29.3 塾や習い事の希望日数（1週当たり）



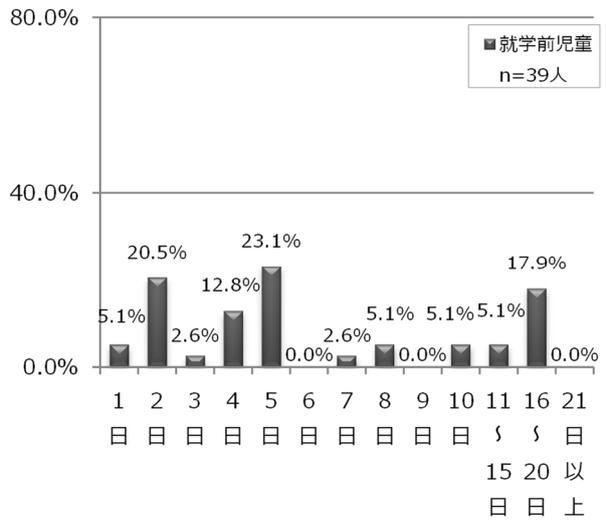
問 29.4 児童館・児童センターの希望日数（1週当たり）



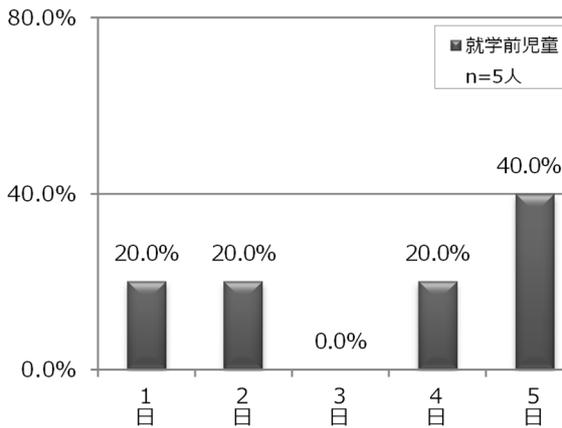
問 29.5 放課後児童クラブの希望日数（1週当たり）



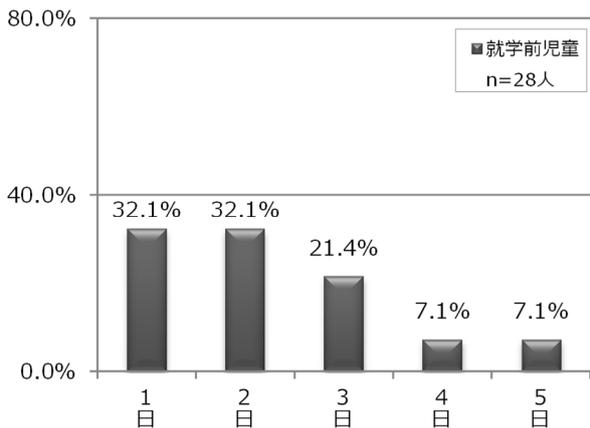
問 29.6 放課後子ども教室の希望日数（1か月当たり）



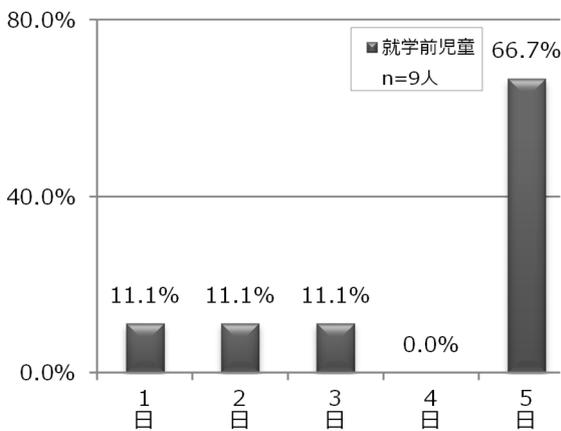
問 29.7 ファミリー・サポート・センターの希望日数（1週当たり）



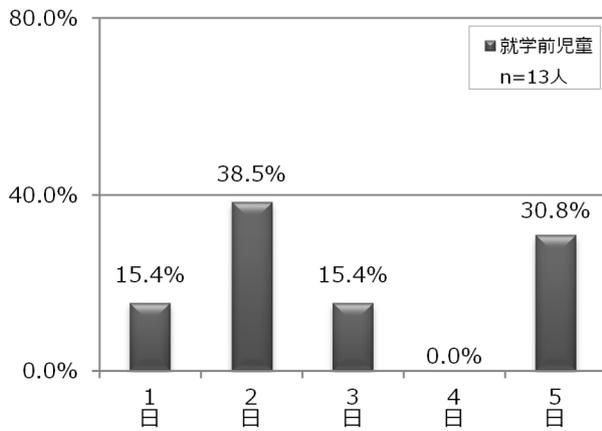
問 29.8 部活動・スポーツ少年団の希望日数（1週当たり）



問 29.9 保育施設等の希望日数（1週当たり）

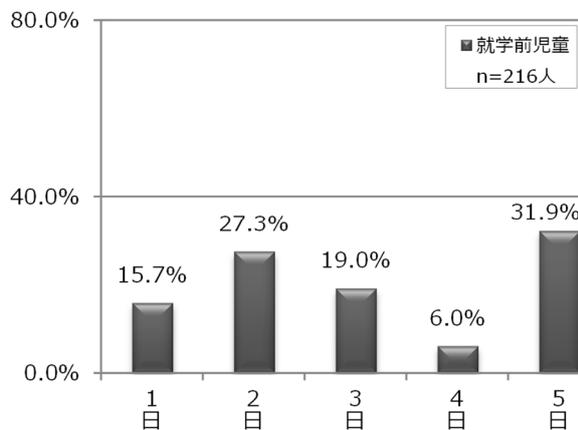


問 29.10 その他の希望日数（1週当たり）

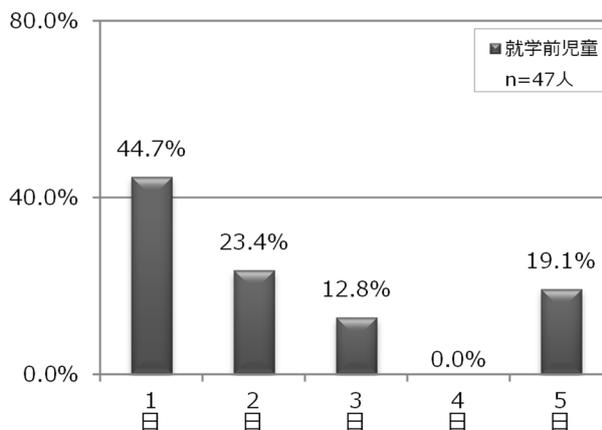


②放課後の過ごし方【小学校高学年の時期】

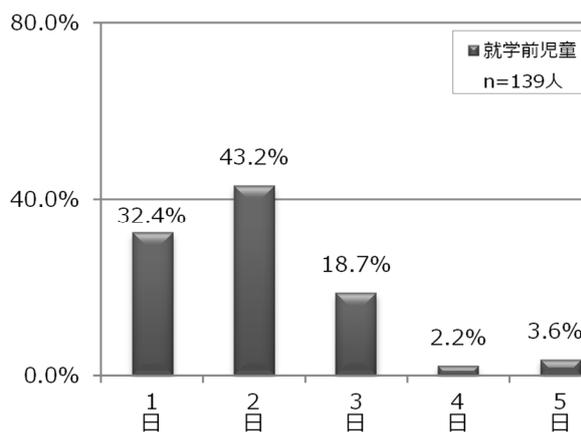
問 30.1 自宅の希望日数（1週当たり）



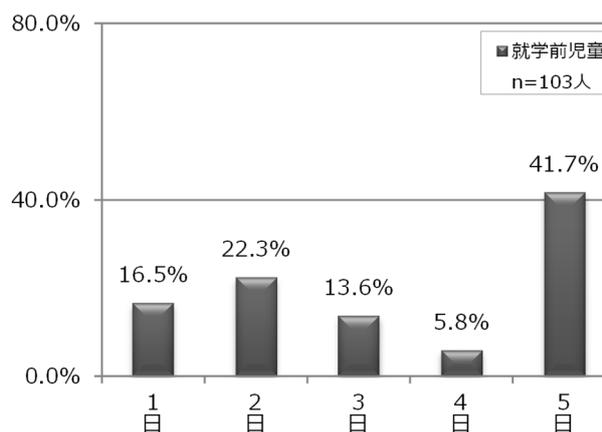
問 30.2 祖父母宅や友人・知人宅の希望日数（1週当たり）



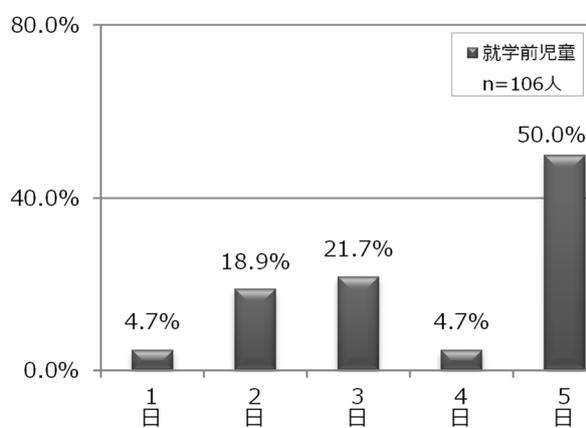
問 30.3 塾や習い事の希望日数（1週当たり）



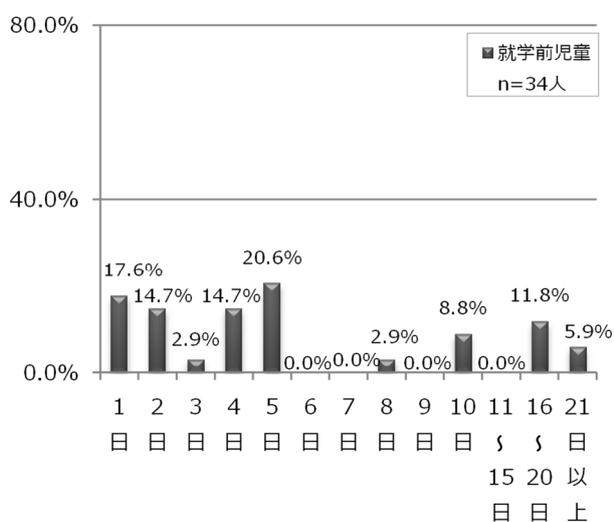
問 30.4 児童館・児童センターの希望日数（1週当たり）



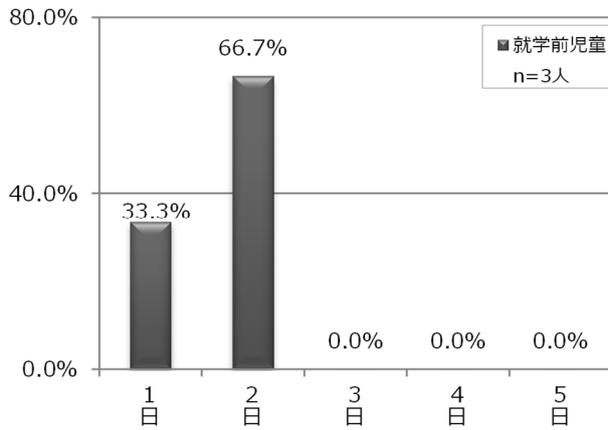
問 30.5 放課後児童クラブの希望日数（1週当たり）



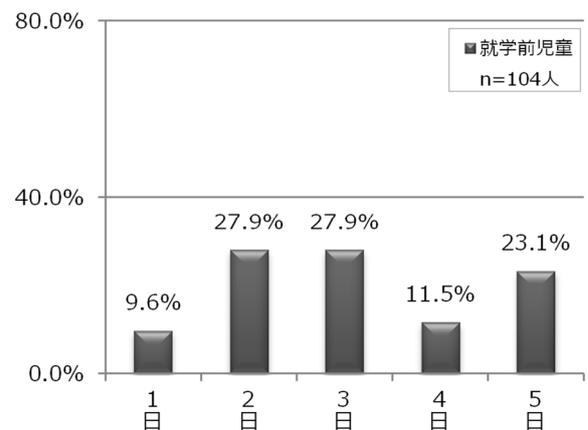
問 30.6 放課後子ども教室の希望日数（1か月当たり）



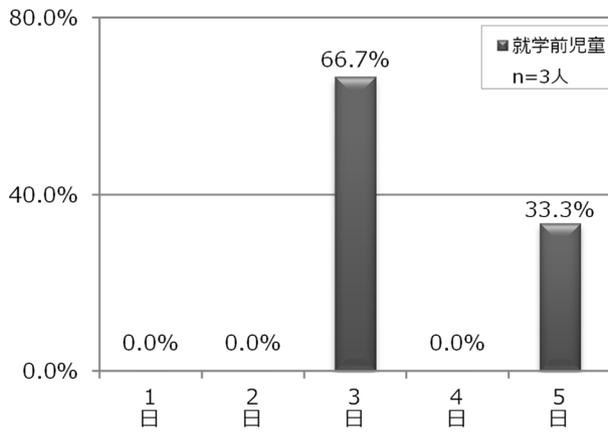
問 30.7 ファミリー・サポート・センターの希望日数（1週当たり）



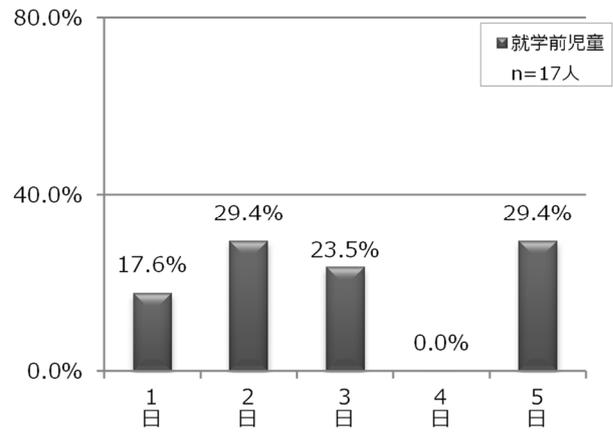
問 30.8 部活動・スポーツ少年団の希望日数（1週当たり）



問 30.9 保育施設等の希望日数（1週当たり）



問 30.10 その他の希望日数（1週当たり）

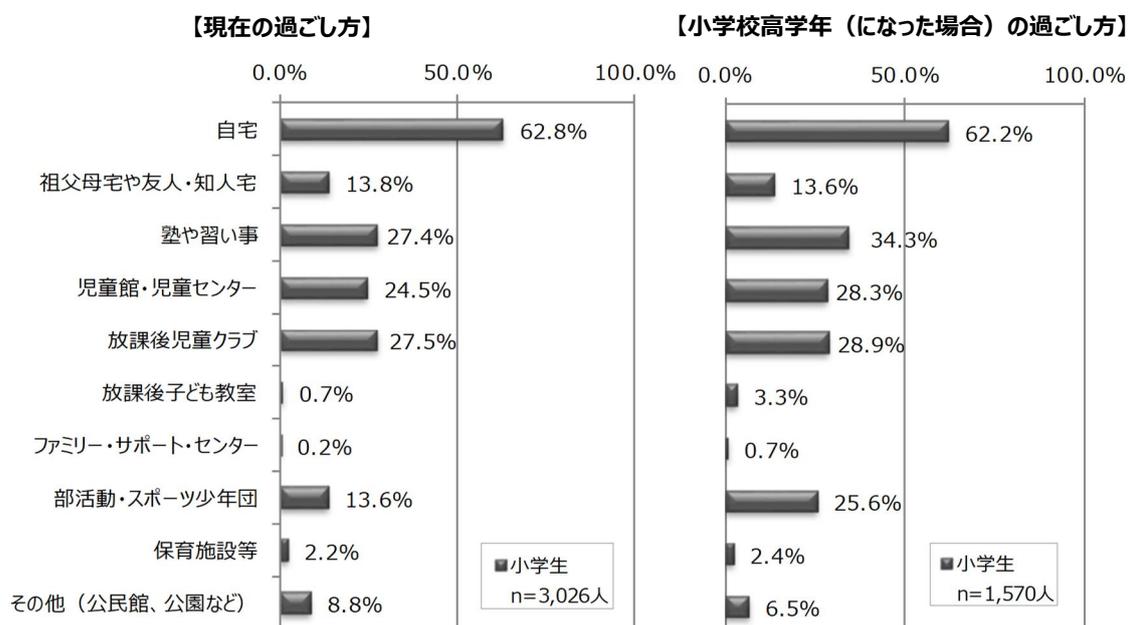


(2) 小学生の平日の放課後の過ごし方について

小学生の放課後の過ごし方をみると、現在の過ごし方では、「自宅」(62.8%)が最も多く、次いで「放課後児童クラブ」(27.5%)、「塾や習い事」(27.4%)、「児童館・児童センター」(24.5%)、「祖父母宅や友人・知人宅」(13.8%)、「部活動・スポーツ少年団」(13.6%)の順となっています。

小学校高学年になった場合の過ごし方の希望は、現在と同様、「自宅」(62.2%)が最も多く、次いで「塾や習い事」(34.3%)、「放課後児童クラブ」(28.9%)、「児童館・児童センター」(28.3%)、「部活動・スポーツ少年団」(25.6%)の順となっており、高学年期になると「部活動・スポーツ少年団」(12.0ポイント増)や「塾や習い事」(6.9ポイント増)の希望が多くなっています。

問 19・問 20 放課後の過ごし方の現状と希望



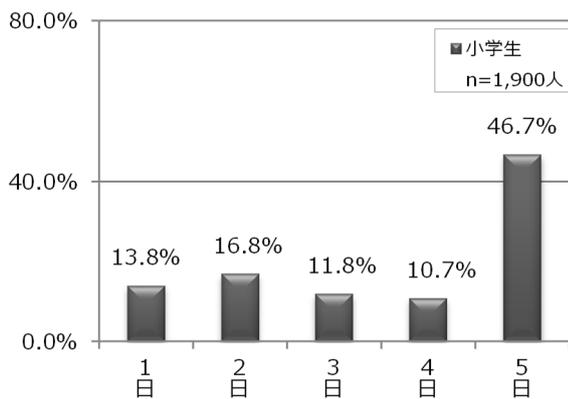
※「小学校低学年」は1～3年生、「小学校高学年」は4～6年生を意味しています。

小学生の放課後過ごしている1週（または1か月）当たりの日数をみると、現在では、『児童館・児童センター』、『放課後児童クラブ』、『保育施設等』は「5日」が最も多く、半数以上となっています。『放課後子ども教室』は「1日」（42.9%）が最も多く、次いで「16～20日」（19.0%）、「4日」、「5日」、「21日以上」（ともに9.5%）の順となっています。

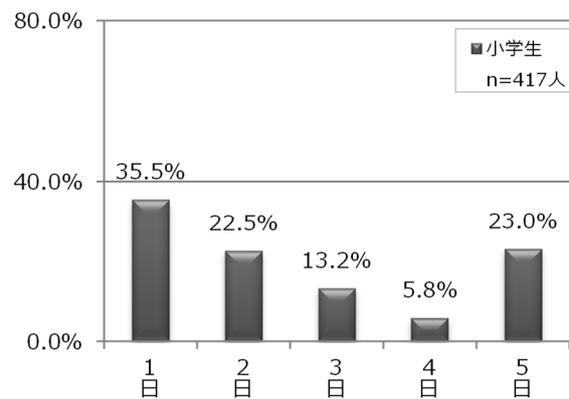
高学年期では、現在と同様、『児童館・児童センター』、『放課後児童クラブ』、『保育施設等』は「5日」が最も多くなっています。

①放課後の過ごし方【現在】

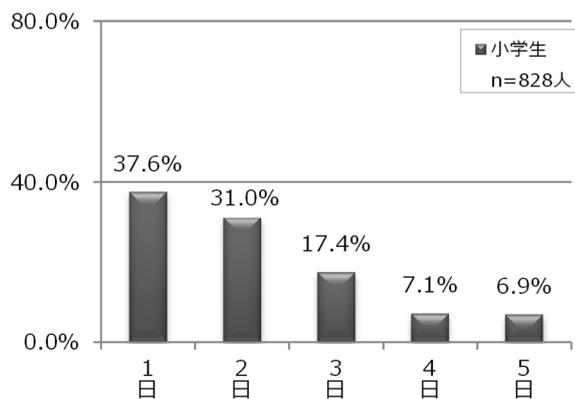
問 19.1 自宅の日数（1週当たり）



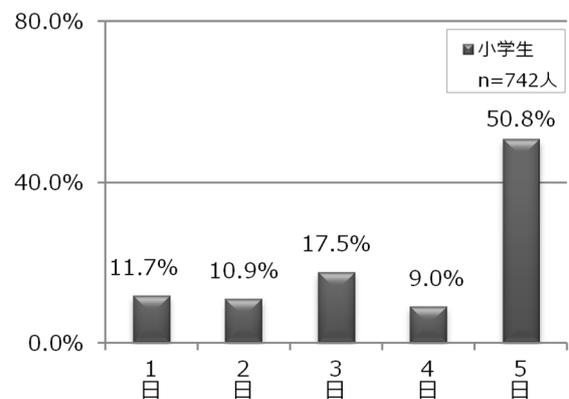
問 19.2 祖父母宅や友人・知人宅の日数（1週当たり）



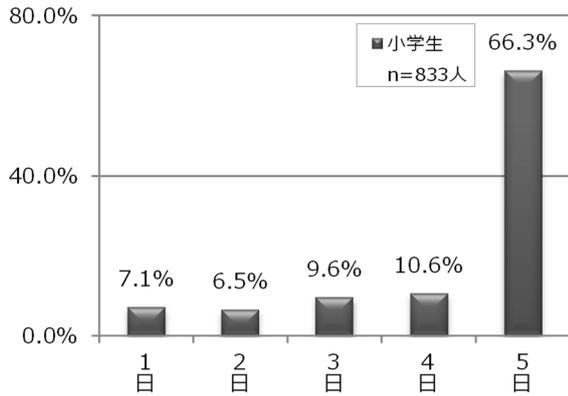
問 19.3 塾や習い事の日数（1週当たり）



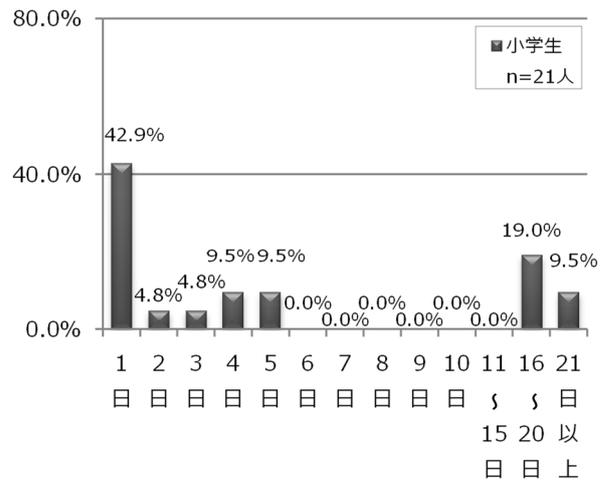
問 19.4 児童館・児童センターの日数（1週当たり）



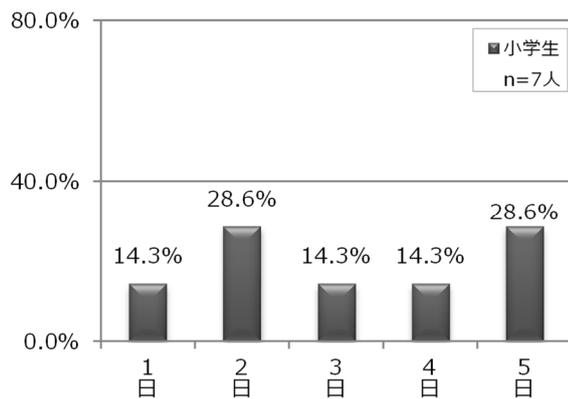
問 19.5 放課後児童クラブの日数（1週当たり）



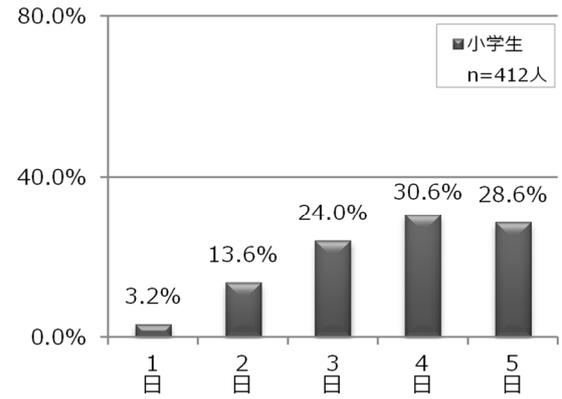
問 19.6 放課後子ども教室の日数（1か月当たり）



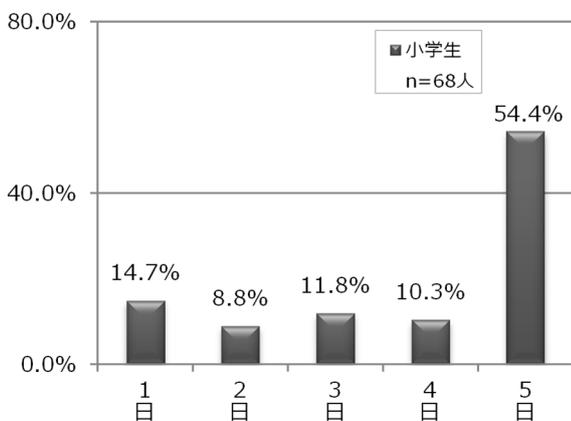
問 19.7 ファミリー・サポート・センターの日数（1週当たり）



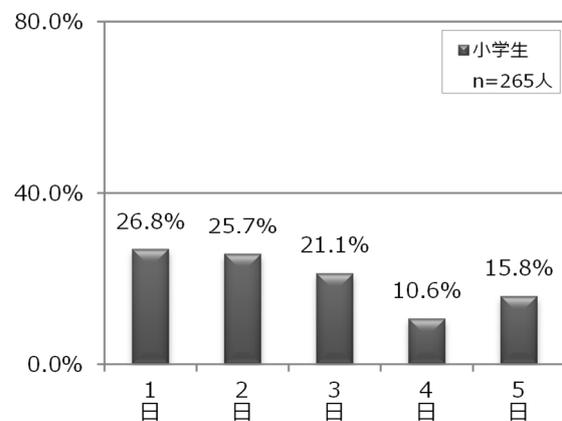
問 19.8 部活動・スポーツ少年団の日数（1週当たり）



問 19.9 保育施設等の日数（1週当たり）

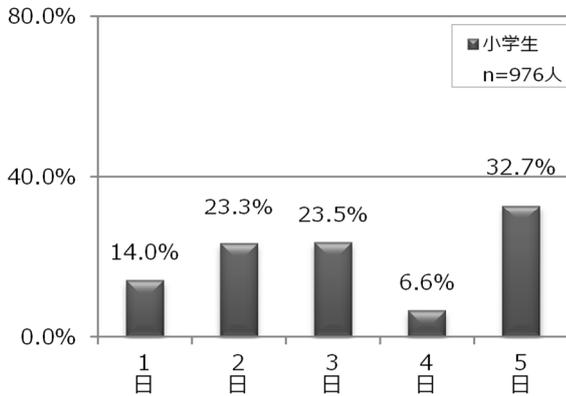


問 19.10 その他の日数（1週当たり）

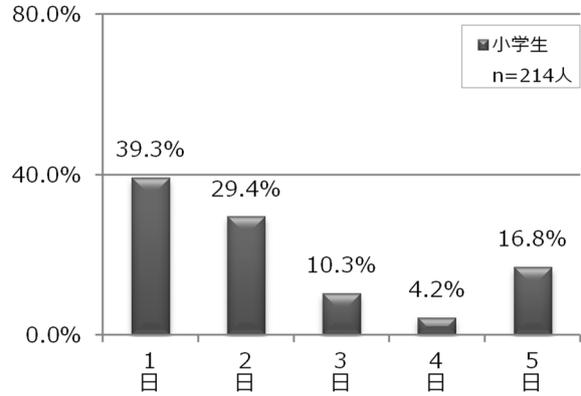


②放課後の過ごし方【小学校高学年の時期】

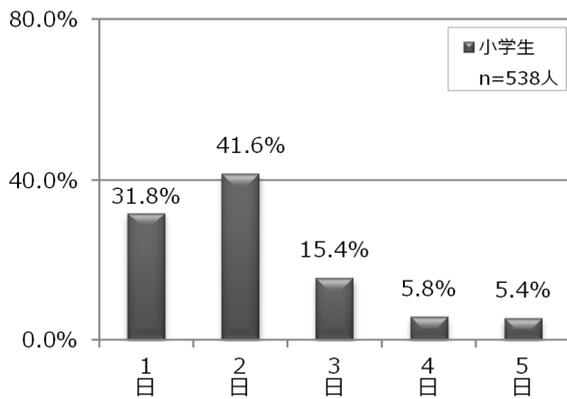
問 20.1 自宅の希望日数（1週当たり）



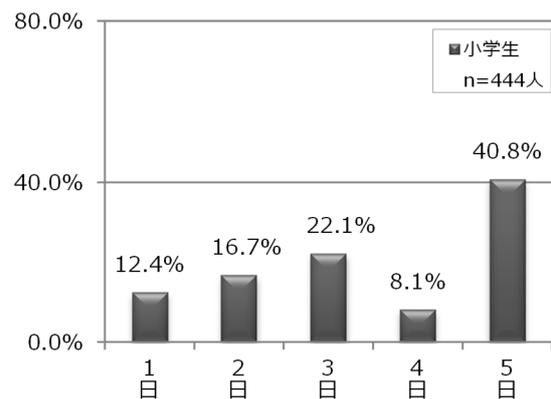
問 20.2 祖父母宅や友人・知人宅の希望日数（1週当たり）



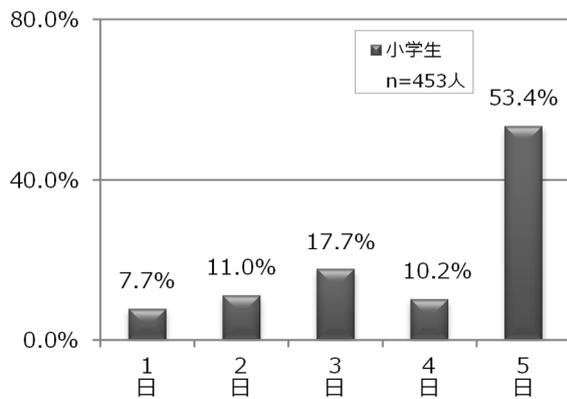
問 20.3 塾や習い事の希望日数（1週当たり）



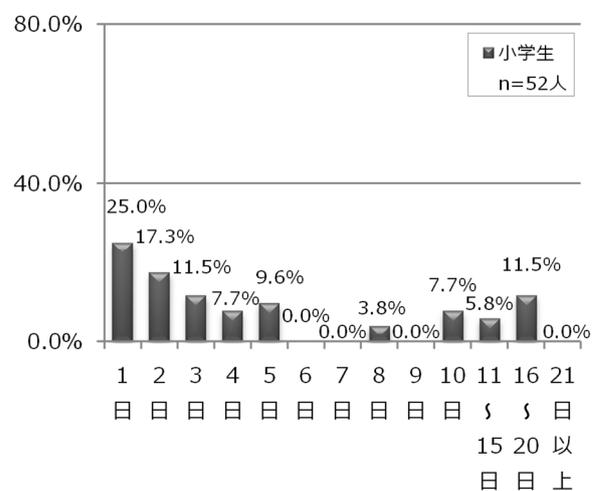
問 20.4 児童館・児童センターの希望日数（1週当たり）



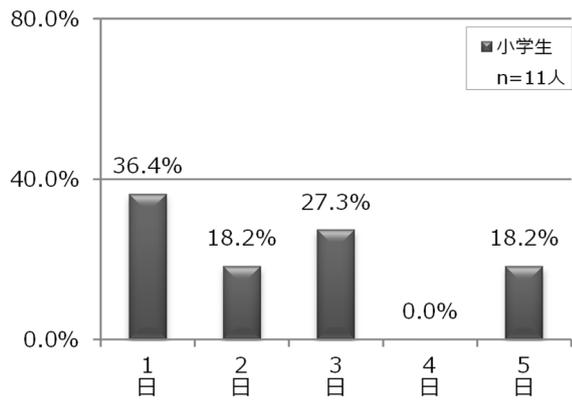
問 20.5 放課後児童クラブの希望日数（1週当たり）



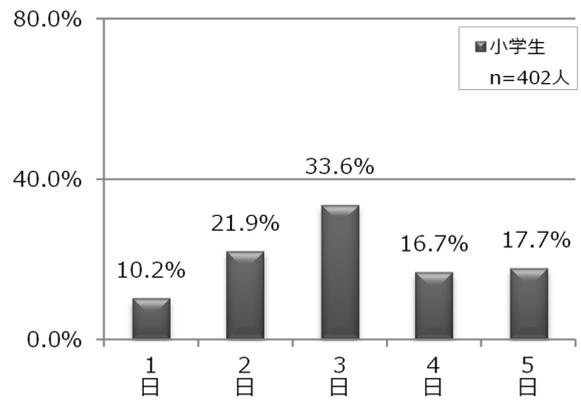
問 20.6 放課後子ども教室の希望日数（1か月当たり）



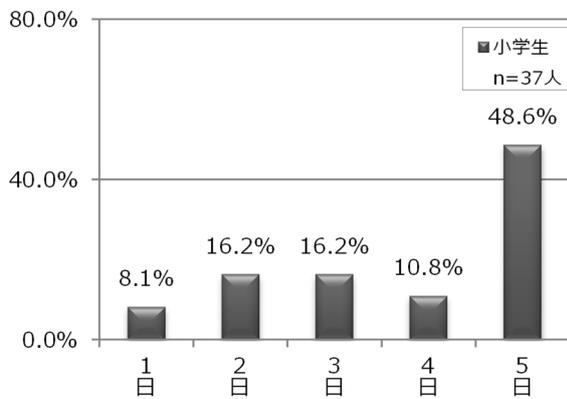
問 20.7 ファミリー・サポート・センターの希望日数（1週当たり）



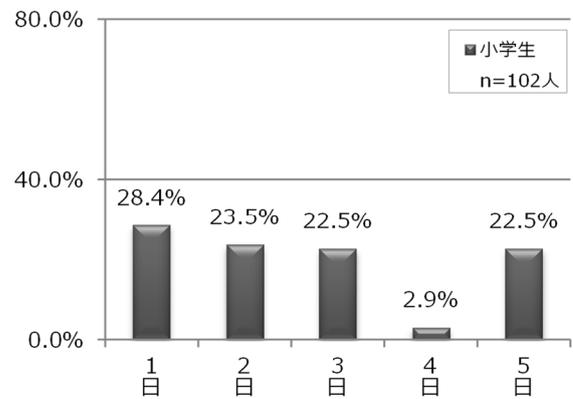
問 20.8 部活動・スポーツ少年団の希望日数（1週当たり）



問 20.9 保育施設等の希望日数（1週当たり）



問 20.10 その他の希望日数（1週当たり）

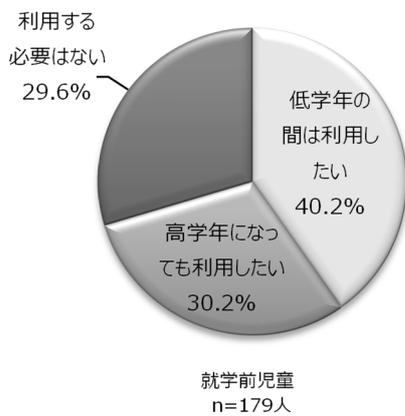


(3) 就学前児童の土曜・休日の放課後児童クラブ利用希望について

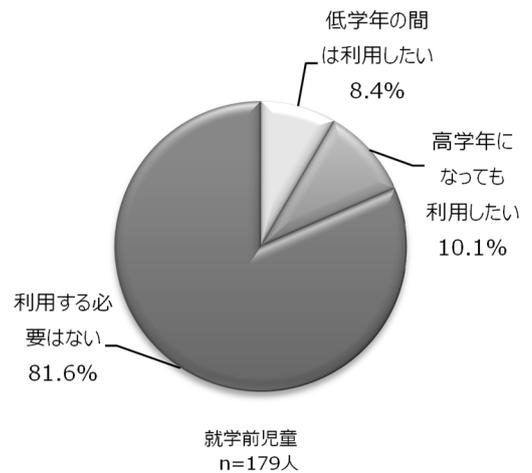
就学前児童の放課後児童クラブの利用希望をみると、土曜日は「低学年の間は利用したい」（40.2%）が最も多く、次いで「高学年になっても利用したい」（30.2%）、「利用する必要はない」（29.6%）となっています。

一方、日曜・祝日では、「高学年になっても利用したい」（10.1%）、「低学年の間は利用したい」（8.4%）は1割未満にとどまり、「利用する必要はない」が81.6%を占めています。

問 31 (1) 土曜日の利用希望



問 31 (2) 日曜・祝日の利用希望

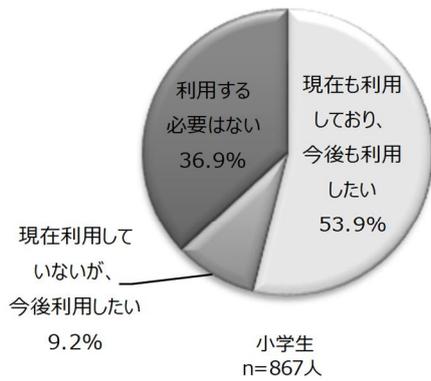


(4) 小学生の土曜・休日の放課後児童クラブ利用希望について

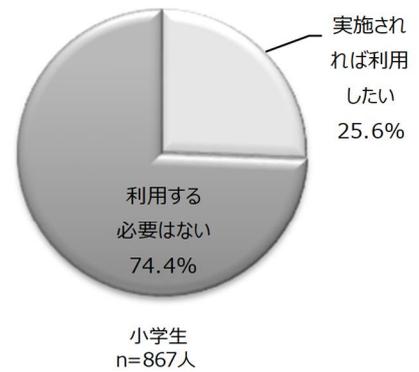
小学生の放課後児童クラブの利用希望をみると、土曜日は「現在も利用しており、今後も利用したい」(53.9%) が最も多く、次いで「利用する必要はない」(36.9%)、「現在利用していないが、今後利用したい」(9.2%) となっています。

一方、日曜・祝日では、「実施されれば利用したい」は 25.6%にとどまり、「利用する必要はない」が 74.4%を占めています。

問 21 (1) 土曜日の利用状況・利用希望



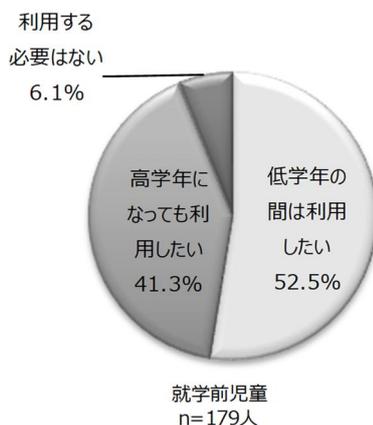
問 21 (2) 日曜・祝日の利用状況・利用希望



(5) 就学時前児童の長期休暇期間中の放課後児童クラブ利用希望について

就学前児童の長期休暇期間中の利用希望をみると、「低学年の間は利用したい」（52.5%）が最も多く、次いで「高学年になっても利用したい」（41.3%）、「利用する必要はない」（6.1%）となっています。

問 32 長期休暇期間中の利用希望



(6) 小学生の長期休暇期間中の放課後児童クラブ利用希望について

小学生の長期休暇期間中の利用希望をみると、「利用する必要はない」（48.3%）が最も多く、次いで「現在も利用しており、今後も利用したい」（41.0%）、「現在利用していないが、今後利用したい」（10.6%）となっています。

問 23 長期休暇期間中の利用希望

